

取扱注意

2026/2027 年（一社）日本呼吸ケア・リハビリテーション学会代議員選挙

立候補者所信表明集（兼立候補者名簿）

○記載内容は以下の通りです。

（基準日：2026年4月30日）

立候補者氏名	立候補者勤務先	
支部立候補番号	所属支部名	所属職種名
立候補所信内容		

○立候補者は支部別に五十音順で掲載しております。

○支部別の定数については、次ページをご参照ください。

目次

北海道支部	3
東北支部	5
関東支部	10
甲信越支部	27
東海支部	32
北陸支部	42
近畿支部	44
中国・四国支部	56
九州・沖縄支部	62

ご注意

立候補者所信表明集は個人情報に記載しているため、お取扱いにご注意ください。
出力された場合は使用后、必ず 粉碎処理 をお願いいたします。

〈 投票にあたってのお願い 〉

- 2026年4月30日時点で所属する支部での投票となります。
- 下記の各支部定数をご確認のうえ、定数まで投票いただきます。
定数を超えて投票するとエラーになりますので、ご注意ください。

〈 定数 〉

北海道支部	7名
東北支部	14名
関東支部	59名
甲信越支部	14名
東海支部	27名
北陸支部	6名
近畿支部	40名
中国・四国支部	22名
九州・沖縄支部	26名

支部 合計 215名

— 北海道支部 —

大方 葉子		KKR 札幌医療センター
1	北海道支部	看護師
<p>私は委員会活動など学術活動に携わり、呼吸器ケアの質向上を目指し努力して参りました。医療の高度化・複雑化により看護師の役割拡充がなされ、働き方も多様化しているとほか、チーム医療のキーパーソンとして、チーム医療の推進求められております。そこで、これまでの経験を活かし、新たな視点を持ちながら多職種協働しチーム医療の実践を推進し、呼吸器ケアの質向上に貢献していきたいと考えている所存でございます。</p>		

今野 哲		北海道大学大学院医学研究院
2	北海道支部	医師
<p>2019年4月1日より北海道大学呼吸器内科学教室を担当させていただいております。COPD/気管支喘息などの閉塞性疾患、びまん性肺疾患、肺高血圧症などの診療、研究、教育を担当しております。今後も、本邦の呼吸器病学発展の為に、日々努力してまいりたいと思っております。</p>		

千葉 弘文		札幌医科大学
3	北海道支部	医師
<p>私、千葉弘文は、日本呼吸ケア・リハビリテーション学会の発展と、呼吸器疾患患者さんのQOL向上に貢献したいと考え、代議員に立候補いたしました。呼吸器内科医として、間質性肺疾患をはじめとする慢性呼吸器疾患の診療・研究に携わってまいりました。多職種連携の重要性を踏まえ、医師、看護師、療法士をはじめとする皆様と協力し、学術活動の活性化と質の高い呼吸ケア・リハビリテーションの普及に努めてまいります。</p>		

福家 聡		KKR札幌医療センター
4	北海道支部	医師
<p>私は理事、支部長、広報委員長、呼吸器疾患患者のセルフマネジメント支援マニュアル、呼吸不全に関する在宅ケア白書および酸素療法マニュアルの作成、編集委員会責任編集委員、呼吸ケア指導士認定委員、将来計画委員などを通して、当学会および呼吸器診療に寄与してきました。呼吸器疾患診療には幅広い領域の知識と実践が必要であり、様々な病態にも対応しうる呼吸器科医とスタッフの育成を目指していく所存です。</p>		

— 北海道支部 —

三浦 利彦		独立行政法人国立病院機構北海道医療センター
5	北海道支部	理学療法士
<p>神経筋疾患の非侵襲的換気療法および気道クリアランスを専門としています。本学会においても急性期から在宅における非侵襲的呼吸管理の研究と教育、啓蒙はもちろん、コメディカルの会員増にも貢献していきます。</p>		

森野 陽		北海道千歳リハビリテーション大学
6	北海道支部	理学療法士
<p>北海道千歳リハビリテーション大学の森野陽と申します。私はこれまで約 14 年間慢性期・急性期の呼吸リハビリテーションの臨床に携わり、現在は教員として 10 年以上同領域の教育・研究・普及に尽力しております。これまでの経験を活かし、学術活動の推進や教育の充実を通じて、本学会のさらなる発展に貢献したいと考え、代議員に立候補いたしました。精一杯努めてまいりますので、何卒お力添えを賜りますようお願い申し上げます。</p>		

山下 康次		市立函館恵山病院
7	北海道支部	理学療法士
<p>北海道という広大な地域では、中央に一極集中する研修会開催となることは避けられません。また、地方での取り組みを積極的に発信することも非常に困難であると考えています。私は、今まで多くの皆様のご支援により地方での取り組みの発信や研修会の開催に努めてきました。今後も会員の皆様のお役に立てるよう努力して参ります、とともに本会の発展に寄与したいと考えておりますので何卒よろしくようお願い申し上げます。</p>		

— 東北支部 —

安達 哲也		東北医科薬科大学病院
1	東北支部	医師
<p>呼吸器内科医として 20 年以上呼吸リハビリに携わっています。前期より代議員に選出していただきました。引き続き当学会のお役に立てるよう勤めて参る所存です。宜しくお願いいたします。</p>		

小川 浩正		東北大学
2	東北支部	医師
<p>現代議員であります東北大学産業医学分野／睡眠医療センターの小川浩正でございます。本学会の代議員選挙にあたり、微力ながら引き続き学会の発展にお役に立ちたいと思ひまして代議員に立候補いたしました。学会としての、呼吸ケア・呼吸リハビリテーションに関する、1)エビデンスの確立・発信、2)本邦における包括的プログラムの拡充、3)教育システムの構築、などに尽力したいと考えております。よろしくお願ひいたします。</p>		

利部 なつみ		石巻赤十字病院
3	東北支部	看護師
<p>前任期で培った経験を活かし、呼吸リハビリテーションにおける看護師の専門性と役割が十分に発揮できるよう、教育体制の充実と組織基盤の強化に尽力したいと考えています。また、災害対策や患者教育の分野においても自身の経験を還元し、本学会のさらなる発展と会員活動の推進に貢献してまいります。</p>		

川越 厚良		市立秋田総合病院
4	東北支部	理学療法士
<p>私は、理学療法士として、急性期病院の職務に従事しながら、安定期における呼吸リハビリテーションに携わっております。令和 2 年度から広報委員を務めており、令和7年度より将来計画委員会におけるセラピスト部会の活動や呼吸リハビリテーション施設委員会も拝命致しました。今後とも、本学会委員会活動も通じて、呼吸リハビリテーションの更なる普及と発展のために尽力して参る所存です。どうぞよろしくお願ひします。</p>		

— 東北支部 —

佐藤 一洋		秋田大学医学部
5	東北支部	医師
<p>呼吸器内科医として、急性期から慢性期、在宅までを見据えた呼吸ケア・呼吸リハビリテーションの普及に努めてまいりました。これまで委員会活動や勉強会を通じ、多職種で学び合う場づくりに取り組んでおります。代議員として、職種を越えた連携の推進と、次世代を担う若手医療者の教育・育成に力を尽くし、本学会の発展に貢献したいと考えております。</p>		

佐野 正明		秋田大学保健管理センター
6	東北支部	医師
<p>秋田大学医学部附属病院、秋田県内の中隔病院に於いて、呼吸器内科専門医として、COPD、気管支喘息、びまん性肺疾患を中心とした呼吸器疾患の臨床、教育、研究に携わっています。理学療法士の先生と協力し、診療、研究を行っております。微力ながら日本呼吸ケア・リハビリテーション学会の発展のために貢献して参りたいと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>		

澤邊 泰		大崎市民病院
7	東北支部	理学療法士
<p>大崎市民病院の澤邊泰です。第12回東北支部学術集会大会長の経験と25年の臨床知見を活かし、本学会の発展に貢献したく初めて立候補いたしました。多職種の専門性を結集して連携し、本学会が地域社会の中でより身近な存在として、関わる全ての方々の幸福に寄与できる組織となるよう力を尽くす所存です。新参の身ではございますが、謙虚に学びつつ、情熱を持って対話と共創の架け橋となれるよう邁進いたします。</p>		

柴田 陽光		福島県立医科大学
8	東北支部	医師
<p>福島県における慢性呼吸不全患者に対する呼吸リハビリテーションの普及とCOPD対策を推進いたします。</p>		

霜山 真		宮城大学
9	東北支部	看護師
<p>私は大学教員として教育・研究に携わりながら、慢性呼吸不全患者に寄り添う看護支援の向上に取り組んできました。東北医科薬科大学若林病院の皆様と連携し、医療ICT研究で医療の質特別賞を受賞しました。現在は現場の負担軽減につながる遠隔看護の実装に挑戦しています。代議員として現場の声を大切に、東北から呼吸器看護と呼吸リハビリテーションの質向上に貢献してまいります。</p>		

菅原 慶勇		秋田リハビリテーション学院
10	東北支部	理学療法士
<p>本学会の代議員として、今後とも先進的な知見と地域の臨床現場を結ぶ架け橋を目指します。地方の現状や課題を的確に集約、発信し、学会運営に反映させることで、地域間格差のない質の高い呼吸ケアの普及に努めます。多職種連携を軸とした呼吸リハビリテーションの構築に貢献し、学術活動の成果を地域住民の健康増進へと還元すべく、誠心誠意取り組む所存です。</p>		

杉野 圭史		一般社団法人慈山会医学研究所付属坪井病院
11	東北支部	医師
<p>地域に根ざした呼吸器診療とリハビリ医療に継続して取り組み、RST 活動や学会・論文発表を通じて実践と発信の両面で貢献してまいりました。これまでの経験を糧に、現場の声を学会活動に還元していきたいと考えております。宜しくお願い申し上げます。</p>		

田坂 定智		弘前大学大学院医学研究科
12	東北支部	医師
<p>診療面では弘前大学医学部附属病院でリハビリテーション部と協力して呼吸理学療法の充実に努めています。学会活動としては、聴診やハイフローセラピーに関する研究発表や急性呼吸不全患者の呼吸ケアに関する教育講演を行いました。今後も学会活動を通して、本邦の呼吸ケアの質の向上や若手呼吸器科医、理学療法士の育成に貢献したいと考えています。また弘前大学において現在行っている教育、研究についても、一層の充実を図ります。</p>		

— 東北支部 —

玉田 勉		東北医科薬科大学
13	東北支部	医師
<p>東北医科薬科大学病院呼吸器内科で多くの呼吸器疾患を担当しています。COPD や喘息などでは吸入指導の強化を徹底し、間質性肺炎やサルコイドーシスなど難治性呼吸器疾患では難病申請や最適の治療・長期管理の実現のために多職種からなるチーム医療を活用したアプローチを心がけております。若手医師育成と並行して、東北地区から多くの知見を発信し、ケアリハ学会の発展に努めて参ります。よろしくお願いたします。</p>		

照井 佳乃		秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻
14	東北支部	理学療法士
<p>私は理学療法士として、COPD 患者の歩行分析や脳卒中患者の呼吸機能の研究を行い、当学会学術集会で発表してまいりました。今までの研究から呼吸機能の低下は様々な疾患の患者の日常生活に大きく影響を及ぼすことを実感しております。また、東北地方では人口減少や高齢化など多くの課題を抱えているため、呼吸リハビリテーションの普及にも取り組み、本学会の発展に貢献したいと考えております。何卒よろしくお願申し上げます。</p>		

中田 隆文		マリオス小林内科クリニック
15	東北支部	理学療法士
<p>私は医療機関内における急性期、回復期、維持期の呼吸リハビリテーションの経験を生かし、在宅医療と在宅呼吸リハビリテーションに尽力しております。自宅での生活を実現したいという患者様の希望を叶えるため、本学会員として臨床、教育、研究に邁進する所存です。</p>		

中山 勝敏		秋田大学大学院 医学系研究科
16	東北支部	医師
<p>超高齢化時代を迎え呼吸器疾患は増加し、呼吸ケア・リハビリテーションの重要性は社会的にも高まっています。特に予防、治療において薬物療法とは別次元の効果をもつ有力なツールであり、また多職種がチームを組み多面的に呼吸器障害患者の ADL と QOL の維持向上を目指すという点からも重要な領域と云えます。私はこの領域の最新情報を取得・共有しながら臨床研究を実践し、新たなエビデンスの発信に努めて行きたいと思っております。</p>		

— 東北支部 —

新國 悦弘		東北大学病院
17	東北支部	理学療法士
<p>東北大学病院の新國です。私は、現在、本学会において代議員および呼吸リハビリテーション委員会、禁煙推進委員会を務めております。また、第33回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会では、事務局長を担当させて頂きました。今後も、本学会のお役に立てるよう、活動してまいります。よろしくお願い致します。</p>		

福井 伸		秋田厚生医療センター
18	東北支部	医師
<p>地方総合病院の勤務医として、地元の医療を守り抜くため尽力いたします。高齢化で増加する慢性閉塞性肺疾患、慢性間質性肺炎、肺癌などに対して、リハビリを含めた多職種で連携し、誰もが安心して暮らせる地域医療の未来を築きたいと考えています。</p>		

古川 大		秋田リハビリテーション学院
19	東北支部	理学療法士
<p>私は、理学療法士養成校の教員として呼吸理学療法教育に携わるとともに、地域における呼吸リハビリテーションの普及活動に取り組んでおります。教育・臨床・地域をつなぐ視点を大切にしながら、呼吸ケア・リハビリテーションに関する知識と技術の向上、人材育成、学術活動の発展に貢献したいと考えております。東北地方の現状や課題を踏まえ、本学会のさらなる発展に尽力して参る所存です。どうぞよろしくお願い致します。</p>		

村上 知征		東北医科薬科大学若林病院
20	東北支部	作業療法士
<p>病院でのリハビリテーション業務、研究活動、地域での呼吸健康教室に携わっております。また本学会では、将来計画委員会に所属しております。対象者それぞれが幸福感や満足感の得られる生活を支えるのに、多職種によるアプローチは不可欠であり、本学会の活動はとても貴重だと感じています。会員の皆様の日々の臨床や研究活動の少しでも役立つ、魅力的な学会となるように貢献してまいりたいと考えています。よろしくお願い致します。</p>		

— 関東支部 —

青木 康弘		医療法人康囃会 プラーナクリニック
1	関東支部	医師
<p>プラーナクリニックの青木康弘と申します。これまでプライマリ呼吸器内科医として呼吸ケアの多職種連携を行ってきました。特に外来および訪問呼吸リハ、吸入指導、在宅呼吸機器の管理、ILD や肺 MAC 症のチーム医療などを実践してきました。今後もプライマリケア領域における呼吸ケアの実践と教育活動を通じて本学会の発展に尽力してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p>		

赤星 俊樹		医療法人社団 慶真記念会 新宿 睡眠・呼吸器内科クリニック
2	関東支部	医師
<p>本会は、急性期から慢性期にわたる呼吸ケア・リハビリテーションを学際的に発展させ、多職種が協働する全人的医療を重視してきました。日頃触れる機会の少ない各専門領域からの発表は、臨床・研究の双方において多くの示唆を与えてくれます。こうした本会の特色と価値を大切にしながら、代議員として今後もその発展に誠実に努めてまいります。</p>		

新 智美		草加内科呼吸ケアクリニック
3	関東支部	看護師
<p>私は多職種が在籍する呼吸ケア専門クリニックの看護師です。ナース・プラクティショナー分野の大学院で学び、診療と看護の架け橋として実績を積み COPD 地域連携システム構築で本学会第18回学術集会優秀賞を頂きました。今日まで呼吸ケアで培った経験を地域に還元し、本学会および日本呼吸器学会で発表もしています。患者さんの生涯に寄り添うクリニックの立場から、これまで同様代議員として学会に貢献致します。</p>		

熱田 了		秋葉原あつたアレルギー呼吸器内科クリニック
4	関東支部	医師
<p>気道系呼吸器疾患の臨床・研究を主としています。第25回 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会の事務局長も務めさせて頂きました。本学会の発展に尽力したいと思います。よろしく願いいたします。</p>		

— 関東支部 —

阿部 博樹		プラーナクリニック
5	関東支部	臨床工学技士
<p>2018 年より代議員を拝命し、診療報酬適正化委員として在宅医療機器の安全管理・停電対策に注力して参りました。現在はスキルアップセミナー実行委員、呼吸ケア指導士認定委員も務め、教育・認定の面からも活動を広げています。臨床工学技士の専門性を活かし、診療報酬の適正化と医療安全の向上、質の高い呼吸ケアを担う人材育成に全力で取り組む所存です。何卒よろしくお願ひ申し上げます。</p>		

石井 伸尚		茨城県立中央病院
6	関東支部	理学療法士
<p>茨城県立中央病院に勤務する理学療法士(PhD)の石井伸尚です。急性期病院にて呼吸リハビリテーションの臨床と研究に長年従事し、国内外での学会発表や本学会誌への論文投稿を通じて学術活動に取り組んでまいりました。日本呼吸理学療法学会評議員としての経験も活かし、現場の視点を大切に、会員の皆さまの臨床・研究活動を支える学会づくりに貢献してまいります。</p>		

一場 友実		杏林大学
7	関東支部	理学療法士
<p>本学会に入会して 18 年が経過し、その間主に COPD やパラスポーツ選手を対象に呼吸筋トレーニングや P0.1 の研究を行い、本学会・AARC(米国呼吸ケア学会)・ERS(欧州呼吸器学会)などでも学術発表をして参りました。少しでも本学会の発展に尽力させていただきたく、AARC や ERS との国際交流や、呼吸リハビリテーションの更なる発展に寄与していきたいと考えております。宜しくお願ひ致します。</p>		

伊藤 玲子		日本大学医学部附属板橋病院
8	関東支部	医師
<p>私は、呼吸器内科医として、呼吸ケア・リハビリテーションにおけるセルフケア支援、吸入療法教育、多職種連携に取り組んでおります。臨床・教育・研究の立場から、現場に役立つ学会活動に貢献できるよう努めてまいります。</p>		

— 関東支部 —

稲垣 武		千葉県立保健医療大学
9	関東支部	理学療法士
<p>引き続き、立候補させていただきます。私は、肺高血圧症に対する呼吸リハビリテーションの研究・臨床をはじめ、急性期から慢性期まで幅広く呼吸リハビリテーションに携わってきました。現在は養成校の教員という立場で、内部障害理学療法士の重要性を学生に伝えています。できるだけ多くの患者さんが適切に呼吸リハビリテーションを受けられ、その質の向上と普及、研究推進などに貢献できるよう尽力したいと考えております。</p>		

今村 創		SBC 東京医療大学
10	関東支部	理学療法士
<p>呼吸ケア・リハビリテーションの質向上と普及に貢献するため、臨床・教育・研究をつなぐ立場から活動します。特に若手育成、地域に根ざした実践の発展を重視し、呼吸ケア指導士同士の連携にも注力したいと思っています。</p>		

上山 雅子		結核予防会 複十字病院
11	関東支部	医師
<p>これまで呼吸器内科臨床、産業衛生活動に関わってまいりました。現在は、睡眠呼吸障害の診断・治療、臨床研究等に携わっております。これらの経験をもとに、広い視点から、呼吸ケア・リハビリテーション学会の発展に貢献させて頂ければと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>		

氏家 麻梨		日本大学医学部附属板橋病院
12	関東支部	医師
<p>私はこれまで、呼吸器内科医として、病院・クリニックでの診療と大学での医学教育に携わり、呼吸ケアやリハビリテーションの普及と発展に努めてまいりました。本学会は学術的根拠に基づく実践の推進と、多職種連携によるケアの質向上を牽引する存在であると考えております。代議員として、会員の皆様とともに臨床・教育・研究の充実を図り、多職種協働による質の高いケアの推進に貢献したいと考えております。</p>		

— 関東支部 —

宇津木 光克		群馬県済生会前橋病院
13	関東支部	医師
<p>2022年4月より新たな施設でRST活動を開始しております。チーム医療の成果は症例報告や活動報告として学会にて発信しております。また、広報委員会にも参加させて頂いており、学会活動に貢献したいと考えております。</p>		

小山田 吉孝		独立行政法人国立病院機構 東京医療センター
14	関東支部	医師
<p>東京医療センターで統括診療部長を務めます小山田吉孝と申します。専門は呼吸器内科です。病院の業務を俯瞰する立場になり、リハビリテーションの重要性を今まで以上に実感しています。これまで学会の座長や投稿論文の査読を担当させて頂いております。今秋の第36回学会でもプログラム委員を務めます。引き続き、学会の助けになるよう精進いたします。</p>		

金子 教宏		亀田京橋クリニック
15	関東支部	医師
<p>私はアメリカ呼吸療法士距離の国際部会の理事をつとめ世界の呼吸ケアについて勉強しています。世界の中で日本の呼吸ケアは特殊なシステムでより良くするには標準化された教育が必要と考えます。その為に、ケアリハ学会が中心になるべきだと考え立候補しました。また、呼吸リハビリの有用性は確立されているにもかかわらず普及していません。その理由は保険制度の問題が大きいと考えますがその改善にも取り組みたいと思います。</p>		

金崎 雅史		東京国際大学
16	関東支部	理学療法士
<p>私はこれまで、MDP(多角的呼吸困難質問票)日本語版の作成や、メンタルによる息切れ緩和の臨床試験など、呼吸困難のメカニズム解明と臨床応用に尽力してまいりました。これらの知見と理学療法士としての教育・臨床経験を生かし、多職種連携による新たなケアの創出と若手育成に努めます。代議員として本学会の学会活動を牽引し、患者のQOL向上と呼吸リハビリテーション分野のさらなる発展に貢献する所存です。</p>		

— 関東支部 —

鎌田 浩史		埼玉医科大学病院
17	関東支部	医師
<p>私は医学部を卒業し、2007年に呼吸器内科医になりました。研修医の頃から慢性呼吸器疾患、特にびまん性肺疾患に関心を持ち、日々の診療でCOPDや気管支拡張症を含め、患者さんの身体活動性の向上や精神的な苦痛の緩和に留意して参りました。本学会は多職種が連携し、熱意をもって診療に取り組む体制となっており、私も呼吸器内科医の立場から患者さんのケアの質の向上に最大限貢献できるよう努めて参る所存でございます。</p>		

川田 奈緒子		千葉大学大学院医学研究院
18	関東支部	医師
<p>私は、これまで COPD をはじめとする呼吸器疾患における画像解析や栄養指標、骨塩量などに関する論文報告、総会や地方会発表を通じて本学会に関わってきました。超高齢社会を迎え、慢性呼吸器疾患における包括的リハビリテーションや栄養管理の重要性は今後ますます高まると実感しています。これまでの研究や臨床経験を活かし、微力ながらこの分野のさらなる充実に貢献したいと考えています。</p>		

神尾 敬子		東京女子医科大学
19	関東支部	医師
<p>呼吸器内科医として慢性閉塞性肺疾患・気管支喘息をはじめとする慢性呼吸器疾患の診療に従事し、呼吸生理学を基盤とした基礎・臨床研究に取り組んでおります。COPD 診療ガイドライン第6・7版の編集委員をつとめております。代議員として、実臨床の問題点や若手医師の声を学会運営に反映させ、呼吸ケア・リハビリテーションのさらなる発展と普及に取り組んでまいります。</p>		

岸 一馬		東邦大学医療センター大森病院
20	関東支部	医師
<p>当院では、急性期および慢性期の呼吸不全患者に対して、医師、看護師、臨床工学技士、理学療法士などで構成される呼吸ケアサポートチームにより、安全で効率的な呼吸管理を実践しています。また、間質性肺炎や COPD の患者に対して、積極的に呼吸リハビリテーションを実施しています。本学会を通して、これらの情報の発信や普及に努めたいと考えています。</p>		

— 関東支部 —

木村 雅彦		杏林大学
21	関東支部	理学療法士
<p>私は理学療法士の学会である日本呼吸・循環器合同理学療法学会学術大会 2023 (RCVPT2023) を主宰し、非常に多くの参加者とともこの領域の有効性と有益性と将来展望について議論する有意義な機会を得ました。本学会は多職種学会の先駆者であった日本呼吸管理学会を前身として今日のリハビリテーションチームの代表的な学会として進化しており、理学療法士として今後も本学会に貢献したいと考えています。</p>		

熊澤 文雄		赤羽中央総合病院
22	関東支部	医師
<p>呼吸リハビリテーションの重要性は、まだまだ一般の人には知られていないと私は感じています。この打破には本学会のさらなる発展が必要不可欠であると考えておりますし、私自身が啓蒙活動を継続していかなくてはならないと考えております。この度、微力ではありますが、本学会のさらなる発展に寄与したく代議員に立候補させていただくことに致しました。皆様の御指導・御鞭撻を賜れば幸いです。よろしく願い申し上げます。</p>		

神津 悠		日本大学医学部附属板橋病院
23	関東支部	医師
<p>呼吸器内科医として急性期から在宅医療まで幅広い呼吸ケアに携わっております。近年は睡眠呼吸障害、呼吸リハビリテーション、遠隔医療を含めた地域連携の推進にも取り組んでおります。多職種協働を基盤とした呼吸ケアの発展と、若手医療者の育成、学術活動の活性化に貢献できるよう努めてまいります。</p>		

古賀 康彦		群馬大学医学部附属病院
24	関東支部	医師
<p>群馬県内の主要施設との連携を基盤として、間質性肺疾患に関する臨床研究ならびに、環境由来吸入粒子が及ぼす病態メカニズムに関するトランスレーショナルリサーチに取り組んでおります。今後は、群馬県内における呼吸リハビリテーション医療のさらなる発展と、呼吸器内科医の育成に貢献してまいりたいと考えております。</p>		

— 関東支部 —

権 寧博		日本大学医学部
25	関東支部	医師
<p>私はこれまで臨床において、呼吸器診療における呼吸ケア・リハビリテーションの実践と多職種連携の推進に努めてまいりました。本学会の更なる発展に向け、現場の声を反映させた学術活動の活性化や、次世代を担う専門人材の育成、地域連携の強化に注力したいと考えております。わが国における呼吸ケアの質向上に貢献する所存です。何卒よろしくお願い申し上げます。</p>		

坂尾 誠一郎		国際医療福祉大学
26	関東支部	医師
<p>私は呼吸器内科医として、特に肺循環・肺高血圧症診療を専門に、診療・教育・研究に取り組んでまいりました。呼吸ケア・呼吸リハビリテーションにおいても、肺循環障害を含めた包括的な視点が重要と考えております。多職種連携を推進し、患者予後と QOL 向上に貢献できるよう、本学会の発展に尽力したく、代議員に立候補いたします。</p>		

佐々木 信一		順天堂大学医学部附属浦安病院
27	関東支部	医師
<p>昨今の呼吸器病診療において、呼吸ケアやリハビリテーションの重要性は、益々高まってきております。当院でも、今後呼吸器センターを立ち上げ、チーム医療を充実し、呼吸ケア・リハビリテーションの充実を図っていく所存でおります。また、呼吸ケア・リハビリテーション学会の発展にも尽くしていきたいと考えております。何卒よろしくお願いいたします。</p>		

佐々木 結花		独立行政法人国立病院機構東京病院
28	関東支部	医師
<p>NHO 東京病院の佐々木結花と申します。抗酸菌症を専門とし、慢性下気道疾患の患者さんを多く拝見しています。慢性気道疾患の患者さんは症状がある時点でリハビリを開始する必要があると考えており、多職種の先生方と共に理学療法に力を入れております。日本全体で同じレベルの治療を受けられるよう尽力してまいりたいと思います。お力をお貸しいただけますと幸甚です。よろしくお願い申し上げます。</p>		

佐野 恵美香		杏林大学
29	関東支部	看護師
<p>学会ではリハビリテーション委員会、編集委員会に所属し学会誌の編集を担当しています。現在は呼吸不全に関する在宅ケア白書のサブ解析に携わっています。デジタル技術を活用したCOPDや気管支喘息のセルフマネジメント支援のための研究を看護の視点から行っています。学会活動を通して呼吸ケア・リハビリテーションの普及・発展に尽くす所存です。どうぞよろしくお願いいたします。</p>		

佐野 裕子		順天堂大学・大学院
30	関東支部	理学療法士
<p>これまで呼吸リハビリテーション委員会でのステートメント作成、シミュレーション教育研修委員会の研修企画運営、診療報酬適正化への取り組み、広報委員としての活動など、多岐にわたる業務に携わって参りました。2024年度からは理事として学会運営にも従事しています。臨床・教育・研究で培った経験を基に、理学療法士の視点から学会の発展と社会への発信に引き続き努めてまいります。皆様のご支援をお願い申し上げます。</p>		

塩田 智美		順天堂大学大学院
31	関東支部	医師
<p>会員の皆様とともに学会の発展に努めてまいります。</p>		

重田 文子		千葉大学医学部附属病院
32	関東支部	医師
<p>私は肺循環領域を専門とし、これまで肺高血圧症患者に対する呼吸ケア・リハビリテーションの研究と診療にも取り組んでまいりました。呼吸ケアやリハビリテーションは、薬物療法だけでは補えない患者さんの身体機能や生活の質の向上に大きく寄与する重要な医療です。今後はエビデンスの創出と普及・多職種連携の推進・人材育成に努め、本学会の発展と呼吸ケア・リハビリテーション医療のさらなる質向上に貢献してまいりたいと考えております。</p>		

— 関東支部 —

白畑 亨		埼玉医科大学
33	関東支部	医師
<p>地域の呼吸器・睡眠医療を担う開業医としての現場感覚と、大学での研究・教育活動で培った知見を活かし、本学会のさらなる発展に貢献いたします。病院と地域医療の架け橋となり、多職種連携の推進、最新のエビデンスの地域普及、そして次世代の人材育成に誠心誠意取り組む所存です。常に患者さんの目線を大切に、臨床現場の声が反映され、日々の診療に還元される学会活動に尽力してまいります。</p>		

新海 正晴		東京品川病院
34	関東支部	医師
<p>当院はリハビリテーションセラピストが216名在籍しており、グループ全体では4000名を超えます。彼ら・彼女らと共に、日本における呼吸ケア・リハビリテーションに寄与していきたい。</p>		

菅原 玲子		複十字病院
35	関東支部	医師
<p>これまで呼吸器内科医として長く呼吸リハに携わってまいりました。五臓の中で唯一、意識して動かすことの出来る臓器が肺です。スマホやAIの普及により、自分の体への意識が薄れがちな現代だからこそ、心身の健康を保つために呼吸のトレーニングがより一層重要になるのではないのでしょうか。これからも、呼吸リハの臨床や研究を通じて、患者さんの持つ力を引き出せるよう取り組んでいきたいと思っております。宜しくお願い致します。</p>		

鈴木 拓児		千葉大学大学院医学研究院
36	関東支部	医師
<p>呼吸器疾患・呼吸不全に対する管理・リハビリテーションを主旨とした本学会の発展のために努力させて頂きたく存じます。これまで倫理・COI委員会などを務めてまいりました。代議員として尽力させて頂きたく、どうぞよろしくお願い致します。</p>		

— 関東支部 —

鈴木 陽一		おひさま在宅クリニック
37	関東支部	医師
<p>都内城北地区を主体に 20 年以上にわたり在宅呼吸ケアを実践してきました。機器や服薬だけでなく、各患者さん毎の多職種チームで、患者さん個別背景を考慮したケアを展開しています。また研修医や医学生、他国のコメディカルへの研修も行っており、引き続きこれまで以上に呼吸ケアに貢献していく所存です。</p>		

多賀谷 悦子		東京女子医科大学
38	関東支部	医師
<p>このたび、日本呼吸ケア・リハビリテーション学会の代議員に立候補させて頂きました。私は、これまで禁煙支援、COPD、慢性呼吸不全患者の呼吸器診療、管理、呼吸リハビリテーションの実践と研究に取り組んでまいりました。多職種連携、地域連携、教育活動をさらに推進し、臨床現場の課題を学会活動へ反映させることで、呼吸ケア・リハビリテーション医療の発展のために尽力していく所存であります。</p>		

竹内 万里子		順天堂大学
39	関東支部	理学療法士
<p>多職種と連携した呼吸ケアおよび呼吸リハビリテーションの発展にお力添えできればと思っております。理学療法士の立ち場から、本学会の呼吸介助手技マニュアル作成やスキルアップセミナーの運営などに携わっております。今後とも技術の継承やさらなる発展のために尽力して参りたいと思います。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。</p>		

髻谷 満		公益財団法人 結核予防会 複十字病院
40	関東支部	理学療法士
<p>呼吸リハビリテーションが他の慢性疾患のリハビリテーションと同様に広く認知され、必要な患者が早期から適切な支援を受けられる環境づくりが重要であると考えています。現状では、呼吸リハの認知不足や実施施設の不足により、地域で継続的な支援を受けにくい患者も少なくありません。医療者・市民への啓発と人材・施設の裾野拡大に取り組み、本学会の発展と呼吸リハのさらなる普及に貢献したいと考えています。</p>		

— 関東支部 —

知花 和行		獨協医科大学 日光医療センター
41	関東支部	医師
<p>私は、過疎化・高齢化が進む栃木県日光地域の拠点病院において、呼吸器診療と呼吸リハビリテーションに取り組んでおります。地域医療の現場で培った経験を学会活動に還元し、多職種連携の推進と呼吸リハビリテーションのさらなる発展に貢献したいと考えております。会員の皆様とともに、地域に根ざした質の高い呼吸ケアの実現に尽力いたします。</p>		

津島 健司		東京医科大学八王子医療センター
42	関東支部	医師
<p>呼吸器内科医として、間質性肺炎を中心に診療しています。また、リハビリ医とは毎週月曜日にカンファレンスを行い、患者情報の共有をしています。リハビリ医との臨床研究を推進しています</p>		

中田 秀一		聖マリアンナ医科大学病院
43	関東支部	理学療法士
<p>私は10年以上にわたり本学会に所属し、発表や論文執筆の機会を重ねながら学会活動に携わってまいりました。日々の臨床で生じる疑問を研究へつなげることの重要性を実感する一方、研究成果を臨床現場へさらに還元できる余地があると感じております。代議員として臨床現場の声を学会活動に反映させ、臨床と研究の橋渡し役を担うことで本学会の発展に貢献したいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>		

中村 守男		独立行政法人国立病院機構神奈川病院
44	関東支部	医師
<p>神奈川県西部において、結核・重症心身症を含むセーフティネット医療と呼吸器診療を担う病院の運営に携わっております。人材不足や厳しい医療経営環境の中でも、呼吸ケア・呼吸リハビリテーションは進む高齢化社会で患者さんの生活を支える重要な基盤です。地域医療の現場で得た知見を学会活動に還元するとともに、多職種連携の推進、呼吸ケアの質向上、人材育成に微力ながら貢献したく存じます。</p>		

— 関東支部 —

梨木 恵実子		埼玉県立大学
45	関東支部	看護師
<p>私は訪問看護師・老人看護専門看護師として呼吸ケアに携わってきました。その中で痛感したことは、増悪予防やセルフマネジメント支援に加え、抗えない「老い」とエンドオブライフの視点を持ちながら、多職種で支援することの重要性です。現在は認知症高齢者への呼吸ケアの探究に取り組んでいます。当学会と地域医療の発展に少しでもお役に立てればとの思いから、初めて立候補いたしました。よろしくお願いいたします。</p>		

西根 広樹		聖マリアンナ医科大学
46	関東支部	医師
<p>診療報酬の改定で重度の低酸素血症にも在宅ハイフローセラピーの適応が拡大され、導入の機会が増えていくことが予測されます。適正で安全な酸素療法、呼吸管理を行っていくために、各施設内での多職種連携のみならず、病病連携、病診連携が求められると考えます。地域医療に貢献できるように、今後も啓蒙、活動を行っていきたいと思います。</p>		

西村 直樹		国立国際医療センター
47	関東支部	医師
<p>救急病院・総合病院の専門科の一員ならびに呼吸器内科指導医として呼吸管理や閉塞性肺疾患から胸部悪性腫瘍やびまん性肺疾患まで幅広い呼吸器診療を高度に行えるよう心がけています。当院は教育病院でもあり多くの将来有望な研修医・専攻医に接する機会があります。呼吸管理の面白さを伝えることでこの領域のすそ野を拓げ、学会に貢献したいと思っています。</p>		

野村 菜摘		順天堂大学医療看護学部
48	関東支部	看護師
<p>2022年より代議員として呼吸器疾患患者のセルフマネジメント支援マニュアル編集委員、広報委員、シミュレーション教育推進委員を務めて参りました。喘息患者のセルフマネジメント支援アプリの開発と有用性の検証を進め、モバイルヘルスの臨床応用に向けた研究に取り組んでいます。呼吸器疾患患者のQOL向上を目指し、学会活動を通じて、学術研究・教育・臨床の更なる発展に貢献できるよう尽力して参ります。よろしくお願いいたします。</p>		

— 関東支部 —

長谷川 信		群馬大学医学部附属病院
49	関東支部	理学療法士
<p>病院に勤務する理学療法士として集中治療から在宅療養まで幅広く携わり、地域での呼吸リハ普及のため研修会運営等に取り組んできました。今後はこれまでの経験を活かし、呼吸ケアリハの普及や多職種連携の強化に努め、地域医療の質向上に貢献いたします。また、会員の皆様の声を学会活動に反映できるよう活動してまいります。何卒よろしくお願いいたします。</p>		

坂東 政司		自治医科大学
50	関東支部	医師
<p>貴学会は、医師・看護師・理学療法士・作業療法士をはじめとする幅広いの職域の皆様が参加し、チーム医療による全人的な呼吸ケア・リハビリテーションの構築を目指す唯一無二の学会であり、これまで間質性肺炎・肺線維症を中心に診療・研究・教育を行ってきた経験を生かし、微力ですが貴学会のさらなる発展に貢献できればと考え、代議員選挙に立候補させていただきます。よろしくお願いいたします。</p>		

久田 剛志		群馬大学大学院保健学研究科
51	関東支部	医師
<p>私は、群馬大学大学院保健学研究科リハビリテーション学教授として、また大学の呼吸器・アレルギー内科医として診療、教育、研究に従事しております。呼吸ケアや理学療法に対する社会の関心はますます高まっており、さらなるニーズを痛感いたします。今後さらに教育、診療、研究を発展させて、社会に還元できるように、そして地域医療に貢献できるように、さらに学会発展のために、積極的に活動していきたいと思っております。</p>		

平沼 久人		日本大学医学部附属板橋病院
52	関東支部	医師
<p>大学病院と地域医療の双方で培った経験を活かし、急性期から在宅まで切れ目のない呼吸ケア・呼吸リハビリテーションの推進に貢献したいと考えております。本学会の発展に微力ながら尽力してまいります。</p>		

— 関東支部 —

藤本 正弘		イムス明理会東京町田病院
53	関東支部	臨床工学技士
<p>呼吸管理を柱として業務を担っている臨床工学技士になります。日々進化する呼吸管理において、更なる治療効果と安全管理を担う一員として諸先生方と活動していく所存であります。貴学会内で臨床工学技士が、臨床や研究に対し一助になれば幸甚に存じます。更に臨床工学技士の呼吸ケア指導士認定数増加に向けて、微力ながら啓発活動を行いたい所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>		

堀江 健夫		前橋赤十字病院
54	関東支部	医師
<p>診療報酬適正化委員長として、医療技術提案を通じた医療の質向上に取り組んでまいりました。令和8年診療報酬改定では、在宅ハイフローセラピー指導管理料2の新規収載、非がん性呼吸器疾患終末期の緩和ケア関連加算の適応拡大を実現しました。今後も、呼吸器リハビリテーション料の見直し、外来呼吸ケア加算、RST要件緩和等を推進し、チーム医療による呼吸ケア・リハビリテーションの普及と発展に一層尽力してまいります。</p>		

前野 敏孝		北里大学医学部
55	関東支部	医師
<p>呼吸器疾患においても、その診断や治療における医療が進歩しており素晴らしいことだと思います。しかし、日々の診療でお会いする患者さんの苦しさを軽減できているか、私自身もまだまだ志半ばかと思っています。呼吸器疾患に苦しむ患者さんの笑顔が見られるよう、是非呼吸ケア・リハビリテーションに関わるすべての職種の方々で力を合わせていきましょう。その一助になれるよう、私自身も努力を続けていきたいと思っています。</p>		

松木 美貴		順天堂大学
56	関東支部	臨床検査技師
<p>私は臨床検査技師として呼吸機能検査および呼吸生理学に携わるとともに、教育・研究活動を通じて呼吸ケア・リハビリテーション分野の発展に取り組んでまいりました。特に、呼吸機能評価の基本であるスパイロメリーの普及と質の向上を通じて、呼吸器疾患の早期発見や適切な呼吸ケアに貢献したいと考えております。代議員として、多職種連携の推進と人材育成に努め、本学会のさらなる発展に尽力してまいります</p>		

— 関東支部 —

松野 圭		順天堂東京江東高齢者医療センター
57	関東支部	医師
<p>呼吸器内科医・アレルギー専門医として診療に従事する傍ら、「ドクター本間の呼吸筋ストレッチ体操認定指導士」として呼吸ケアの普及にも努めています。さらに、呼吸リハビリテーションに関するステートメント改定にも携わってまいりました。呼吸リハビリテーションは、フレイル・サルコペニア対策としても重要性が高まっており、今後も診療・教育・研究を通じて呼吸リハビリテーションの発展に貢献してまいります。</p>		

丸岡 秀一郎		日本大学医学部
58	関東支部	医師
<p>日本大学呼吸器内科学分野診療教授として、喘息、COPD、呼吸器心身症を中心とした呼吸器診療、医学教育、研究に従事しております。本学会では、代議員としてまた、2020年には教育コンテンツ作成に携わらせていただきました。これらの経験を活かし、引き続き代議員として、微力ながら本学会と呼吸ケア・リハビリテーション学の発展のために尽力させていただきたく存じます。何卒、ご高配を賜りますようお願い申し上げます。</p>		

水村 賢司		日本大学医学部
59	関東支部	医師
<p>私は、気管支喘息、間質性肺疾患、COPDをはじめとする呼吸器疾患の診療に加え、患者教育や病態解明を目的とした研究に取り組んでまいりました。これまでの経験を生かし、呼吸ケア・リハビリテーション学会の発展に微力ながら貢献してまいりたいと考えております。よろしくようお願い申し上げます。</p>		

望月 太一		国際医療福祉大学三田病院
60	関東支部	医師
<p>主に喘息・COPDなどの慢性気道疾患や呼吸器感染症の臨床に深く携わってまいりました。代議員として選出されましたら「地域医療機関および多職種との連携強化」です。地域の開業医の先生方や看護師、理学療法士らとの協働・研修ネットワークを構築します。現在HFNC装着下での呼吸リハをリハビリテーション科と連携し遂行しております。何卒ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。</p>		

— 関東支部 —

茂木 孝		呼吸ケアクリニック東京
61	関東支部	医師
<p>呼吸器専門クリニックの医師です。当学会ではこれまでに酸素療法マニュアルの編集委員，呼吸ケア指導士認定委員，スキルアップセミナー実行委員などを務めてきました。今後もプライマリケアの視点から呼吸リハビリの普及に関与していきたいと思ひます。</p>		

八戸 敏史		平成医療福祉グループ・多摩川病院
62	関東支部	医師
<p>呼吸ケア・リハビリテーションを取り巻く環境は、急性期から慢性期、在宅・地域医療まで大きく広がっています。今期も代議員として、これまでの呼吸器内科診療、多職種連携、地域包括ケアの実践経験を活かし、シームレスな呼吸ケア支援体制の構築と、地域に根ざした呼吸リハビリテーションの普及に尽力したいと考えております。患者さんの QOL・健康寿命向上、地域医療連携の推進、そして学会の発展に貢献してまいります。</p>		

山口 智大		日本大学医学部附属板橋病院
63	関東支部	理学療法士
<p>大学病院で呼吸器・内部疾患を中心に理学療法士として臨床に携わってまいりました。私の根幹は臨床現場であり、多職種が連携し包括的な視点で患者さんと向き合うことが重要であると考えています。今後も臨床を大切にしながら、現場で働くセラピストの声に耳を傾け、学会活動を通じて地域医療・ケアの向上に少しでも寄与できればと考えております。本学会の円滑な運営の一助となれるよう、努めて参ります。</p>		

山口 泰弘		自治医科大学附属さいたま医療センター
64	関東支部	医師
<p>埼玉県での中核病院としての機能に貢献するとともに、慢性呼吸器疾患のケアを疾患初期から終末期までシームレスに継続できる地域医療の向上に貢献できるように励みます。</p>		

— 関東支部 —

横江 琢也		昭和大学病院藤が丘病院
65	関東支部	医師
<p>呼吸器内科医として、人工呼吸器を要する重症患者の呼吸ケアから慢性期の患者の呼吸リハビリテーションまで一貫して診療してきました。急性期と回復期をつなぐ視点を活かし、多職種連携の推進と呼吸ケア・リハビリテーション医療の発展に貢献すべく、代議員に立候補いたします。</p>		

若林 律子		日本医科大学大学院
66	関東支部	看護師
<p>現在、呼吸ケア指導士認定委員、スキルアップセミナー実行委員、診療報酬適正化委員、国際化委員を務めさせていただいております。呼吸ケアにおいては、看護師も重要な役割を担っており、チームの中で協働していくことに加え、看護師の活動内容を明白にし、実績・エビデンスを積み重ね、看護師から発信することも必要と考えます。学会での活動を通して、よりよい呼吸ケアのために看護師からの発信ができるよう努力してまいります。</p>		

和田 裕雄		順天堂大学
67	関東支部	医師
<p>学会では代議員を担当しています。現在は呼吸不全に関する在宅ケア白書のサブ解析に携わっています。さらに、疫学領域における睡眠の客観的評価法の確立を目指しています。また、医師の働き方改革などの公衆衛生学的課題の解決も目指しています。学会活動を通して呼吸ケア・リハビリテーションの普及・発展に尽くす所存です。どうぞよろしく願いいたします。</p>		

— 甲信越支部 —

安中 裕紀		新潟医療福祉大学
1	甲信越支部	作業療法士
<p>私は、日本呼吸ケア・リハビリテーション学会における作業療法士の会員数増加を志し、代議員に立候補いたしました。掲げた目標の達成は、会員増加による学会の発展だけに留まらず、呼吸リハビリテーションにおける作業療法の質の向上に波及すると考えております。若輩者ではございますが、何卒よろしくお願い申し上げます。</p>		

市山 崇史		信州大学医学部附属病院
2	甲信越支部	医師
<p>信州大学医学部附属病院の市山崇史です。呼吸サポートチームでの13年の経験や、栄養サポートチームでの10年の経験、急性期から回復期に至る診療経験を活かし、幅広く呼吸ケアに携わっています。患者の予後改善には、医師の治療だけでなく多職種による良質な呼吸ケアとリハビリテーションが不可欠です。多職種連携による呼吸ケアの質をさらに向上させ、広く普及させていくため、代議員として学会に貢献したいと考えております。</p>		

大澤 拓		中信勤労者医療協会 松本協立病院
3	甲信越支部	看護師
<p>現在は病棟が中心ですが、これまで外来や在宅の現場でも、呼吸ケアの輪を広げ、学会活動も努力してまいりました。現在は呼吸ケア指導士掲示板「呼吸の森」ワーキングにも参画させていただき、地域で、全国で更に呼吸ケア・リハビリテーションのつながりを広げながら、皆様とともに呼吸ケアの実践を元気に継続できるよう頑張りたいと思っています。ケアリハ学会を通じて全国でつながる仲間を増やして参りましょう。</p>		

大嶋 康義		新潟大学医歯学総合病院
4	甲信越支部	医師
<p>新潟大学の大嶋康義と申します。昨年秋の本学会学術集会では事務局として学会員のみなさまの熱気の中で多職種の方々と関わらせていただきました。第13回支部学術集会で大会長を仰せつかることとなりました。今年度第11回大会の長野、来年度第12回大会の山梨、そして新潟の流れを引き継ぎ、みなさまと共に甲信越地域の呼吸ケア・リハの発展に寄与していきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>		

— 甲信越支部 —

北口 良晃		信州大学医学部
5	甲信越支部	医師
<p>私北口は、信州大学医学部附属病院にて呼吸器内科医師として閉塞性肺疾患を中心とした臨床・研究を行っております。平素より会員の皆様方にはご指導・ご鞭撻を頂き、深謝いたします。今後も微力ではありますが、代議員として学術集会をはじめとする学会運営に尽力したいと考えております。長野県では特に医師の会員数が少ない現状がありますので、少しでも増やせるよう活動していきたいと思っております。何卒よろしくお願ひいたします。</p>		

坂井 邦彦		新潟臨港病院
6	甲信越支部	医師
<p>院内の呼吸ケアサポートチームや地域の病診連携や病薬連携、介護施設職員向けの定期勉強会などを開催し、円滑な地域連携の推進ならびにメディカルスタッフの知識・技術の向上に取り組んでいます。また、新潟呼吸ケアフォーラム及び新潟 COPD リンクの代表を務めており、第 10 回甲信越支部学術集会では大会長を務めさせていただきました。よろしくお願ひします。</p>		

酒井 康成		信州大学医学部附属病院
7	甲信越支部	理学療法士
<p>代議員選挙に立候補いたしました酒井康成と申します。代議員として、臨床現場の声を学会運営に反映し、実践に直結する学術活動の推進に貢献すること。若手医療者の声を積極的に学会へ届け、その意見が反映される仕組みづくりに取り組むこと。呼吸リハのエビデンスをより強固なものとするため、臨床研究やデータの蓄積・発信を推進することを目標とします。本学会の発展と会員の皆様にとって有益な活動に尽力してまいります。</p>		

瀬崎 学		済生会新潟県中央基幹病院
8	甲信越支部	理学療法士
<p>現代議員も務めさせて頂き、昨年は第 10 回甲信越支部学術集会並びに第 35 回学術集会の新潟開催において尽力しました。一昨年は第 10 回日本呼吸理学療法学会を新潟で開催することも出来、今後も甲信越地域呼吸ケアの連携向上が目標です。また、当会呼吸ケア指導士委員会としても「呼吸の森」を通じた呼吸ケア指導士の認知向上と活躍にも働きかけていきたい所存です。どうぞ宜しくお願ひ致します。</p>		

— 甲信越支部 —

高岸 弘美		公立大学法人 山梨県立大学
9	甲信越支部	看護師
<p>山梨県より代議員として立候補します。甲信越支部の呼吸ケアに携わる多職種の方々と一緒に研修や交流の機会を企画・実施し、支部の活性化に努めていきます。</p>		

高橋 祐介		新潟大学医歯学総合病院
10	甲信越支部	理学療法士
<p>これまで理学療法士として病院勤務の傍ら、院内外における呼吸ケアの発展に取り組んでまいりました。今後は代議員として、さらに専門的知見を活かし、一層の研鑽を重ねて貢献する覚悟で立候補いたします。</p>		

筒井 俊晴		山梨県立中央病院
11	甲信越支部	医師
<p>呼吸ケア・リハビリテーションの発展のために尽力することを約束いたします。院内では医師としてRST 回診や RST 学習会を通じて職員への教育を行い、コメディカルスタッフと共に呼吸ケアのスキルアップを図っていきます。山梨県呼吸ケア・リハビリテーション研究会の代表世話人を拝命しており、実技指導や啓発活動に力を注いで参ります。また日本呼吸器学会代議員として呼吸器診療を盛り上げていきたいと考えています。</p>		

中澤 篤人		医療法人誠和会 中沢クリニック
12	甲信越支部	医師
<p>前期は関東支部代議員を務めさせて頂きました。現在は山梨での診療を主軸に、神奈川県立循環器呼吸器病センターでの呼吸リハビリテーション診療における臨床と研究も継続しております。さらに本年 4 月より甲州リハビリテーション病院に参画し、地域に根ざした実践を始めました。海外留学や米国胸部疾患学会(ATS)プログラム委員での経験も生かし、呼吸リハビリテーションの発展と連携強化、普及啓発に努めて参ります。</p>		

— 甲信越支部 —

中村 可愛		新潟臨港病院
13	甲信越支部	理学療法士
<p>私は、急性期から在宅まで切れ目のない呼吸リハビリの実践に向け、新潟呼吸ケアフォーラムの運営を通じて多職種・多施設との連携に取り組んでいます。院内の呼吸ケアチーム活動では患者向け呼吸教室の開催やスタッフ向け勉強会等の企画・運営に携わっています。第10回甲信越支部学術集会では事務局長を務めました。これらの経験を生かし、呼吸ケア・リハビリテーションのさらなる発展に貢献したいと考えております。</p>		

花岡 正幸		信州大学学術研究院医学系医学部
14	甲信越支部	医師
<p>高齢化社会を迎え呼吸器疾患が増加傾向にある中で、日本呼吸ケア・リハビリテーション学会の果たす役割は益々重要です。多職種間で連携を取りながら、日本の呼吸ケア、呼吸リハビリテーションの発展、普及に向け、努力して参りたいと思います。また、学術面においても日本発の研究成果を世界に発信できるよう、本学会の活性化を図っていく所存です。</p>		

星 力央		新潟県立がんセンター新潟病院
15	甲信越支部	臨床工学技士
<p>このたび、日本呼吸ケア・リハビリテーション学会代議員に立候補いたします。他職種と良い連携が得られる本学会の良さをさらに活かせる運営と、他職種交流の促進に尽力したいと存じます。臨床工学技士としての知識を活かしつつ、多くの会員が参画しやすい環境の整備に努め、本学会の発展に貢献してまいりたい所存です。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。</p>		

松本 武志		佐久総合病院 佐久医療センター
16	甲信越支部	理学療法士
<p>今期は掲げた目標に取り組む中で、呼吸ケア指導士認定委員として活動する機会をいただき、長野県内および甲信越支部の連携強化と活動推進に力を注いでまいりました。また対面活動を大切にしたい学会活動の提案・実行にも取り組んでまいりました。来期は、会員の皆様にとってより身近で有意義な学会活動を目指すとともに、呼吸ケア指導士の新たな可能性を形にし、実践につなげられるよう努めてまいります。よろしく願いいたします。</p>		

— 甲信越支部 —

丸山 卓也		地方独立行政法人 長野市民病院
17	甲信越支部	臨床工学技士
<p>これまで臨床現場で人工呼吸器管理やスタッフ教育に深く携わってきました。呼吸ケアにおける医療機器の高度化が進む中、臨床工学技士の果たす役割はますます重要になっています。代議員として、機器の安全使用と最新知見の普及に向けた教育活動に貢献し、本学会が推進する多職種協働による質の高い呼吸ケア・リハビリテーションの発展に全力を尽くします。</p>		

宮城 芳江		信州大学医学部附属病院
18	甲信越支部	看護師
<p>大学病院に勤務する認定看護師として、診療・教育・研究等に関わり、本学会では呼吸ケア指導士として広報委員、呼吸の森掲示板サポーター等の活動を継続してまいりました。自身の学びが一区切りとなるタイミングで、改めて地域、コメディカルを繋ぐ活動をさらに行なっていきたいと考えております。どうぞ宜しくお願い致します。</p>		

室井 勇人		JA 長野厚生連 佐久総合病院 佐久医療センター
19	甲信越支部	看護師
<p>呼吸器疾患看護認定看護師として、急性期から在宅まで切れ目のない呼吸ケアを目指し、セルフマネジメント支援や地域連携、多職種協働を大切に、患者さんとともに望む生活を見出す看護実践に努めております。当学会では将来計画委員会看護部会に携わり、看護師会員の増加と、現場と学会をつなぎ学び合える環境づくりに取り組んでおります。皆さまの声を学会活動へ還元することに貢献したいと考え、代議員に立候補いたします。</p>		

山極 春子		国立病院機構 信州上田医療センター
20	甲信越支部	薬剤師
<p>私は病院薬剤師として病棟業務や、主にがん治療患者さんの外来業務に携わり、地域薬局との情報共有や吸入連携を進めてきました。その中で、連携の成果とともに、病院・地域・他職種間の隔たりも実感しています。呼吸ケアに関わる患者さんが地域で安心して療養を継続できるよう、誰が対応しても同じように支援できる仕組みづくりと情報発信に努め、地域連携の推進に貢献したいと思っております。</p>		

— 東海支部 —

青山 理		西尾市民病院
1	東海支部	看護師
<p>臨床で得た看護の視点を学会活動にいかし、より良い呼吸ケアの提供と多職種連携の推進に努め、患者の生活を支える質の高い呼吸ケアの実現に向けて誠実に取り組みます。</p>		

麻生 裕紀		安城更生病院
2	東海支部	医師
<p>公立陶生病院にて呼吸リハビリテーションに携わり、2011 年より名古屋大学医学部附属病院にて呼吸リハビリテーションチームと RST の立ち上げから参画しました。現在は、安城更生病院にて呼吸リハビリテーションを確立し、他施設とも連携することにより呼吸器疾患患者の自立を実現するシームレス医療を目指しています。今後も、皆様方と協力し、呼吸ケアと呼吸リハビリテーションの普及に努めていきたいと考えています。</p>		

有菌 信一		聖隷クリストファー大学
3	東海支部	理学療法士
<p>私は 2006 年度より代議員を務めさせていただいております。これまで呼吸ケアと呼吸リハビリテーションの発展のために、学術活動や臨床現場での診療や後進の育成(教育)に尽力して参りました。今後も本学会の未来が更なる発展を遂げるよう代議員の責務を全うする所存であります。引き続き、呼吸ケア・リハビリテーション学会の代議員に立候補致しますので、どうぞよろしくお願い致します。</p>		

石井 誠		名古屋大学大学院医学系研究科
4	東海支部	医師
<p>東海地区の代議員として、臨床・教育・研究の経験を活かし、呼吸ケア・リハビリテーションの発展と多職種連携の推進に引き続き貢献してまいります。</p>		

— 東海支部 —

伊藤 理		愛知医科大学
5	東海支部	医師
<p>呼吸リハビリテーションチームの一員として、呼吸器疾患診療ならびに RST 活動に携わってまいりました。また、長年に渡り呼吸器学や呼吸生理学に関する学術活動を行ってまいりました。現在は、本学会雑誌の責任編集委員を務めております。引き続き、皆様と連携を深め、診療、教育・研究いずれの面におきましても貢献できるよう努力してまいる所存です。</p>		

岩井 宏治		星城大学リハビリテーション学部
6	東海支部	理学療法士
<p>2024 年度より東海支部代議員を拝命し、このたび 2 期目の立候補をさせて頂きました。2011 年の入会以降、多くの学会発表や論文投稿の機会を頂き、2019 年には学会奨励賞も受賞いたしました。これまでの数々の経験に加え、2024 年からは代議員としても活動しましたが、本学会への恩返しはまだ道半ばと感じております。微力ではございますが、今後も本学会の発展に尽力したいと思います。何卒よろしくお願ひ申し上げます。</p>		

小川 智也		愛知淑徳大学
7	東海支部	理学療法士
<p>呼吸リハビリテーションの実践をチームとして取り組み、後進の育成にも努めてまいりました。本学会の活動としましては 2014 年より代議員を務め、2017 年には第 4 回東海地方学会の会長を務めさせて頂きました。また、2023 年より東海支部実技講習会の開催にも携わらせていただいております。今後とも本学会の発展に少しでも寄与できればと思ひ立候補いたしました。何卒よろしくお願ひいたします。</p>		

片岡 健介		公立陶生病院
8	東海支部	医師
<p>呼吸ケアに関連した臨床研究活動をサポートし、学会を盛り上げたいと思ひます。</p>		

— 東海支部 —

加藤 孝昭		名古屋大学医学部附属病院
9	東海支部	臨床工学技士
<p>院内 RST の一員として呼吸関連の勉強会の企画やインシデント対応に取り組んできました。これらの経験から、現場に根ざした課題解決と安全性向上の重要性を実感しています。今後は得られた知見を学会活動へ還元し、医師・看護師・リハビリスタッフとの多職種連携を通じて、呼吸ケアの質向上と実践的な知見の共有に貢献するとともに、現場の声を学会へ積極的に反映してまいります。</p>		

木村 智樹		公立陶生病院
10	東海支部	医師
<p>呼吸器内科医として地域の基幹病院で多職種のチームの一員として呼吸器疾患診療に携わっています。学会活動においても、支部の事務局や実技講習会の運営責任者などを担当しています。専任頂ければ、引き続き活動を継続していきます。</p>		

金原 将太		医療法人清須呼吸器疾患研究会 はるひ呼吸器病院
11	東海支部	理学療法士
<p>呼吸器専門病院に勤務する理学療法士です。日々の臨床で感じる呼吸ケアのやりがいを大切にしながら、学会の未来に貢献したいと思い立候補しました。研究や実績はまだまだ浅いですが、現場で感じる課題を共有し、若手会員がより身近に感じられる学会づくりに貢献したいです。皆様と共に学び、成長しながら、学会のさらなる発展のために全力を尽くします。</p>		

久保 貴嗣		独立行政法人地域医療機能推進機構 中京病院
12	東海支部	理学療法士
<p>私は理学療法士として急性期病院から老人保健施設まで幅広く経験し、現在は介護認定審査委員として介護保険分野にも従事しています。高齢患者の呼吸ケア・リハビリには、急性期から在宅までの切れ目ない連携と多職種協働が不可欠です。現場で培った実践知を基に、教育・地域連携を推進し、学会活動を通じて本領域の発展と普及を力強く後押しします。</p>		

— 東海支部 —

小島 英嗣		小牧市民病院
13	東海支部	医師
<p>急性期病院での呼吸器診療を通じ、回復期・維持期に至るシームレスな呼吸ケア・リハビリテーションの重要性を実感しております。本学会の最大の強みである多職種連携をさらに深化させ、患者さんにとって質の高い呼吸ケアの実現に向けて微力ながら尽力する所存です。</p>		

小橋 保夫		はるひ呼吸器病院
14	東海支部	医師
<p>日本でも数少ない呼吸器専門病院の一員として、急性期から慢性期、在宅医療まで幅広い呼吸器診療に携わっています。呼吸ケア・リハビリテーションは医師だけで成り立つものではなく、多職種がそれぞれの専門性を発揮し協働することで質の高い医療が実現します。代議員として、多職種が活躍できる学会運営と現場に根差した情報発信に努め、呼吸ケア・リハビリテーション医療の発展に貢献したいと考えています。</p>		

小山 昌利		公立陶生病院
15	東海支部	臨床工学技士
<p>本学会における臨床工学技士の参画を促進し、多職種連携の更なる深化に貢献したく立候補いたしました。現在、技士の参加は十分とは言えません。私は、臨床現場での専門性を活かした教育活動や研究発表を通じ、若手技士が本学会へ魅力を感じる土壌を築きます。また、他職種との橋渡し役を担い、工学的視点を取り入れた質の高い呼吸ケア・リハビリテーションの確立と、学会の持続的な発展に全力を尽くす所存です。</p>		

齋藤 修平		大垣市民病院
16	東海支部	看護師
<p>2018年より代議員として学会運営に携わり、また2016年からは呼吸スキルアップセミナー実行委員として、多職種への教育・人材育成の核心に長年携わってまいりました。認定看護師・上級呼吸ケア指導士として、現場の声を学会活動へ確実に反映させることで、本学会のさらなる発展に寄与する所存です。何卒よろしくお願ひ申し上げます。</p>		

— 東海支部 —

齊藤 雄二		はるひ呼吸器病院
17	東海支部	医師
<p>はるひ呼吸器病院院長の齊藤雄二です。呼吸ケア・リハビリテーション学会東海支部を今後とも盛り上げていくために頑張ります。よろしくお願いいたします。</p>		

白木 晶		しらき内科クリニック
18	東海支部	医師
<p>この度、代議員に立候補させていただきます。私は大垣市民病院呼吸器内科にて呼吸ケアに関わり、2019年より無床クリニックを開業、主に呼吸器疾患患者を診療しています。吸入療法については特に力を入れており、一宮吸入指導の会の世話人、事務局を担当しています。外来での呼吸リハビリも行っており、地域の受け皿となっています。今後も呼吸ケア・リハビリの普及、発展に貢献したいと考えていますので、よろしくお願いいたします。</p>		

杉谷 竜司		名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻
19	東海支部	理学療法士
<p>私は大学病院にて呼吸リハビリテーションを中心とした臨床に従事してまいりました。昨年からは現所属にて教育を担い、臨床で培った知識と経験を次世代の人材育成に還元する立場にあります。代議員として、教育・研究の両面から呼吸ケアの発展に寄与したいと考えております。養成校教育を通じて裾野を広げるとともに、職種や経験年数、施設規模にかかわらず、すべての会員が参加しやすい学会活動の推進に貢献してまいります。</p>		

谷口 奈穂		はるひ呼吸器病院
20	東海支部	看護師
<p>呼吸器疾患を抱える患者さんが、その人らしい生活を安心して続けられるよう、HOT 導入や退院前訪問を含む療養移行支援、ACP を通じた意思決定支援に取り組んできました。ICU で培った急性期看護の経験も活かし、急性期から在宅まで切れ目なく支える呼吸看護の実践を学会活動へ還元し、呼吸ケアの質向上と多職種連携の推進に貢献したいと考えます。</p>		

— 東海支部 —

俵 祐一		聖隷クリストファー大学
21	東海支部	理学療法士
<p>急性期から終末期まで幅広く呼吸リハビリテーションに携わり、これまで九州沖縄支部・東海支部にて代議員を務めてまいりました。現在は教育・研究活動に加え、呼吸理学療法領域の学会運営にも関わっております。多職種連携と後進育成を通じ、本学会のさらなる発展に貢献したく、代議員に立候補いたします。</p>		

塚田 さやか		公立陶生病院
22	東海支部	臨床工学技士
<p>私は臨床工学技士として、人工呼吸器をはじめとする医療機器の安全管理と呼吸療法の質向上に取り組んでまいりました。代議員として、臨床工学技士の専門性と役割を広く発信し、呼吸ケアに関わる臨床工学技士の発展に尽力してまいります。</p>		

辻村 康彦		平松内科・呼吸器内科小牧ぜんそく睡眠リハビリクリニック
23	東海支部	理学療法士
<p>呼吸リハビリテーションは、急性期から慢性期まで、また医療から介護の現場に至るまで幅広く実践され、その効果を発揮することができます。私は、この有用な手法をより多くの医療・介護従事者の皆様に知っていただき、日々の臨床に活かしていただけるよう、普及・啓発活動に取り組んでまいります。皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。</p>		

寺町 涼		公立陶生病院
24	東海支部	医師
<p>貴学会には 10 年以上所属し、これまで呼吸管理など複数回学術集会で発表させて頂きました。現在は主に集中治療室で急性期呼吸管理を主体に行い、リハビリテーション部など多職種連携を取り診療を行っています。また、RST 活動も行い、スキルアップセミナーの講師なども行っています。また、研究成果の論文報告も積極的に行っています。是非貴学会の発展に貢献できればと考えております。</p>		

— 東海支部 —

土井 ひとみ		公立陶生病院
25	東海支部	看護師
<p>病棟や外来、現在の在宅医療の現場で、看護師として呼吸器ケアに 10 年以上携わってきた経験を活かし、学会の発展に貢献したく立候補いたしました。臨床で培った知識を基に、患者とその家族に寄り添う呼吸ケアの実践、および多職種連携の強化に尽力いたします。また、療養生活を見据えた質の高いケアが広く普及できるよう誠心誠意取り組みます。よろしくお願いいたします。</p>		

中村 祐基		伊賀市立上野総合市民病院
26	東海支部	医師
<p>伊賀市立上野総合市民病院 呼吸器内科の中村祐基と申します。松阪市民病院、名張市立病院を経て、現在も酸素療法、呼吸管理を専門として、急性期から慢性期まで幅広い呼吸器疾患を診療しています。赴任後は積極的に呼吸器リハビリテーションを普及、導入しております。特に在宅ネーザルハイフロー療法においては全国有数の症例を有しており、今後データを蓄積し発表していく所存です。よろしくお願いいたします。</p>		

野々山 忠芳		一宮西病院
27	東海支部	理学療法士
<p>これまで、北陸支部代議員、第 14 回北陸支部学術集会長を務めるとともに、医学教育事業検討委員会、呼吸ケア指導士認定審議委員会・認定委員会、学術集会プログラム委員会、東海支部代議員等において活動してまいりました。呼吸ケアの発展と会員活動の充実に貢献したく、立候補いたします。</p>		

萩本 聡		公立陶生病院
28	東海支部	医師
<p>呼吸器疾患患者の QOL 向上を目指し、臨床・研究・教育の架け橋となる活動を推進します。特に非がん性呼吸器疾患における緩和ケアの普及に取り組みます。</p>		

— 東海支部 —

畑地 治		社会福祉法人恩賜財団済生会松阪市民病院
29	東海支部	医師
<p>三重県中南部以南の呼吸器ケア・リハビリテーションを行い得る基幹病院の病院長として立候補し、呼吸器ケア・リハビリテーション学会の評議員になりたいと考えております。宜しく願いいたします。</p>		

春田 良雄		公立陶生病院
30	東海支部	臨床工学技士
<p>本学会は多職種が加わる学会であり臨床工学技士として連携して学会の発展に微力ながら寄与したいと思っております。また、将来計画委員会において職種の総リーダーであり、会員増加に向けた活動を行っていきたいと考えています。</p>		

平澤 純		公立陶生病院
31	東海支部	理学療法士
<p>理学療法士として 20 年間、呼吸ケア・リハビリテーションの現場で多くの実践と多職種連携を経験しました。この学びをもとに、今後は代議員として「多職種が互いに学び合える環境づくり」と「若手育成」を推進します。現場の「つながり」を活かし、地域における呼吸ケア・リハビリテーションの発展へ貢献するとともに、次世代への教育に全力を注ぐ所存です。ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。</p>		

藤澤 朋幸		浜松医科大学
32	東海支部	医師
<p>私はこれまで、呼吸器内科医として非がん性呼吸器疾患における緩和ケアおよび呼吸リハビリテーションの臨床・研究に従事してまいりました。特に間質性肺疾患の緩和ケアについて全国規模の調査研究を行い発表してきました。現在は多施設共同研究や介入研究にも取り組んでおります。これらの経験を生かし、本領域および本学会の発展に貢献したいと考えております。何卒よろしくお願い申し上げます。</p>		

— 東海支部 —

藤本 源		三重大学医学部附属病院
33	東海支部	医師
<p>1998年に三重大学を卒業し、2001年以降は一貫して呼吸器診療に従事してまいりました。現在は三重大学呼吸器内科にて診療・研究・教育を行っておりますが、三重県内の各病院とも連絡を取り合って連携を図っております。当地区における呼吸ケア・リハビリテーションの推進に尽力する所存です。よろしくお願ひいたします。</p>		

三川 浩太郎		中部学院大学
34	東海支部	理学療法士
<p>これまで呼吸リハビリテーションに携わってきた臨床・研究の経験、ならびに大学教員として培ってきた理学療法教育の経験を活かし、呼吸リハビリテーションの普及・啓発と人材育成に取り組んでまいります。また、地域における呼吸ケア・リハの連携体制の充実に尽力し、本学会のさらなる発展に貢献してまいります。ご支援のほど、よろしくお願ひ申し上げます。</p>		

守川 恵助		社会福祉法人恩賜財団済生会松阪市民病院
35	東海支部	理学療法士
<p>2018年度より代議員を務め、現場の実践知を学会へつなぐ役割を担ってきました。これからも急性期から在宅まで一貫した呼吸ケアの質向上に挑み、多職種連携、教育・研究の推進、若手育成に尽力します。患者中心の呼吸リハの価値を社会へ広げていきます。まだまだ若輩者ですが、何卒よろしくお願ひ申し上げます。</p>		

横山 俊樹		公立陶生病院
36	東海支部	医師
<p>急性期呼吸管理を主に臨床をやっております。本学会においては、急性期呼吸管理・呼吸ケアの教育を主軸に、呼吸ケア指導士関連の委員会に各種携わってきました。また昨年からは呼吸ケア指導士専用掲示板「呼吸の森」立ち上げに関わらせていただき、さらなるチーム医療の発展を目指して活動させていただいております。引き続きよろしくお願ひいたします。</p>		

— 東海支部 —

渡辺 伸一		岐阜保健大学
37	東海支部	理学療法士
<p>急性期・慢性期の呼吸理学療法および集中治療領域での臨床経験を基盤に、教育・研究活動に取り組んでおります。評議員として、エビデンスの創出と普及、多職種連携、人材育成を通じて、本学会および呼吸理学療法のさらなる発展に貢献したいと考えております。</p>		

渡邊 文子		公立陶生病院
38	東海支部	理学療法士
<p>呼吸リハビリテーション専任の理学療法士として従事し、臨床、研究、教育に積極的に取り組んできました。2014 年により呼吸ケアリハビリテーション学会の代議員となり、2019 年より倫理・COI 委員会の委員を務めております。引き続き、本学会の発展に貢献したいと考えており、立候補させていただきます。何卒よろしくお願いいたします。</p>		

上坂 裕充		石川県立中央病院
1	北陸支部	理学療法士
<p>私はこれまで本学会から多大な知見や経験を頂き、日々の臨床に生かすことができました。本学会に育てて頂いた身であり、これまでの運営や教育に尽力された諸先輩方に深く敬意と感謝を申し上げます。近年、チーム医療の先駆的存在の本会で、会員数が減少している事を心配しております。私のように「入会してよかった」と実感できる人が少しでも増えるようにと思い、代議員に立候補致しました。何卒宜しく願い申し上げます。</p>		

上原 佳子		福井大学医学部看護学科
2	北陸支部	看護師
<p>福井大学看護キャリアアップ部門副部門長として、呼吸器疾患看護認定看護師教育に携わっております。今後も呼吸ケアに貢献できる看護師の養成に尽力して参りたいと思います。</p>		

大倉 徳幸		金沢大学附属病院
3	北陸支部	医師
<p>このたび代議員に立候補いたします。呼吸器内科医としての臨床・教育・研究の経験を活かし、呼吸ケア・リハビリテーションにおける多職種連携の推進、若手育成に貢献したいと考えております。地域に根ざした実践と学会活動の発展に尽力いたします。</p>		

礪波 利圭		福井大学医学部
4	北陸支部	看護師
<p>福井県在宅酸素療法患者会の事務局をさせていただく中で、患者さんだけでなくご家族への支援も重要と考えております。今後は今まで以上に、県内だけでなく全国の患者さんやご家族への支援を積極的に進めていきたいと思っております。よろしく願いいたします。</p>		

— 北陸支部 —

福田 紗恵子		富山大学附属病院
5	北陸支部	理学療法士
<p>北陸の強みである「会員同士の顔が見える緊密な距離感」を活かし、呼吸ケア・リハビリテーションの発展にさらに貢献したく、立候補いたしました。密な連携を通して現場の声を吸い上げ、地域全体の技術・知識の向上と、次世代の育成につながる活動を推進してまいります。皆様と手を取り合い、北陸から質の高いケアを発信していく所存です。温かいご支援をよろしく願いいたします。</p>		

早稲田 優子		福井大学医学部
6	北陸支部	医師
<p>私が専門とするびまん性肺疾患では、薬物療法に加え、非薬物療法が極めて重要です。その実践には、医師とコメディカルによるチーム医療や、他領域・他施設との連携が欠かせません。その基盤となる本学会の発展に、地方大学病院のチームの立場から貢献したいと考えています。多様な立場の会員が互いに補い合い、相乗効果を生み出せる学会づくりを目指し、現場の声を学会活動に反映できるよう努めてまいります。</p>		

— 近畿支部 —

相田 利雄		大阪国際がんセンター
1	近畿支部	理学療法士
<p>以前は慢性呼吸不全症例を中心とした診療をしていましたが、現在は大阪国際がんセンターへの異動を機に化学療法中や呼吸器疾患を有する周術期のがん症例の診療を行っております。臨床経験から呼吸器疾患患者が積極的に運動を行える場が少ないことをつくづく感じております。現在、大阪府のがん患者の運動支援を行っており、その経験をもとに呼吸器症例の運動支援に寄与できればと考えております。よろしくお願ひします。</p>		

浅井 一久		大阪公立大学大学院医学研究学科
2	近畿支部	医師
<p>COPD を中心に慢性呼吸器疾患の診療・研究をライフワークとしております。身体活動性、増悪と関連するデジタルバイオマーカーについて研究を進めており、理学療法士、作業療法士、看護師の皆様とも研究を進めたいと考えています。代議員に選出されましたら、一層の呼吸リハビリテーションの普及に努めたいと存じます。何卒よろしくお願ひいたします。</p>		

今戸 美奈子		近畿大学
3	近畿支部	看護師
<p>本学会の将来計画委員会や広報委員会などの活動に携わってまいりました。今後も、多職種が互いの専門性を生かしながら学び合える学会づくりに貢献するとともに、看護職会員への支援を通して、呼吸ケア・リハビリテーションを必要とするすべての方々に適切で質の高いケアが届けられるよう、本学会のさらなる発展に尽力してまいります。</p>		

大島 洋平		京都大学医学部附属病院
4	近畿支部	理学療法士
<p>2020年より代議員を務めさせていただいており、この度再度立候補いたしました。他にも学術集会のプログラム委員や学会誌編集委員の活動にも取り組んでおります。普段は理学療法士として大学病院での臨床・教育・研究に従事しております。呼吸ケア・リハビリテーションの益々の発展を目指すべく、本学会会員数の増加や若手の人材育成などにも取り組んでいきたいと考えております。何卒よろしくお願ひ申し上げます。</p>		

— 近畿支部 —

大竹 洋介		みきやまりハビリテーション病院
5	近畿支部	医師
<p>当院は全 166 床(障害者病棟 116 床、回復期病棟 50 床)で、呼吸ケア指導士 1 名、3学会合同呼吸療法認定士 9 名が所属しております。主に頸髄損傷など外傷患者や ALS などの神経難病疾患進行期の入院患者を対象に呼吸ケアおよびリハビリを行なっております。小生は呼吸器外科医を経て 2020 年から当院に勤務しており、現在日本呼吸器外科学会指導医および評議員です。よろしくお願ひ申し上げます。</p>		

小川 恵美子		滋賀医科大学
6	近畿支部	医師
<p>呼吸器専門医の少ない滋賀県において、多職種と連携した呼吸器疾患の啓発や患者さんの教育・ケアに微力ながら尽力してきました。学会では禁煙推進委員会委員を務めてまいりました。近年、特に重要性を増す高齢呼吸器疾患患者さんの身体活動性維持やケアの充実は、現在の地域医療の最重要課題です。今後も多職種との強固な連携のもと、患者さんのケアを通して学会の発展に貢献したいと考えております。宜しくお願ひします。</p>		

沖 侑太郎		神戸大学
7	近畿支部	理学療法士
<p>この度、代議員選挙立候補をいたしました沖 侑太郎です。在宅呼吸ケア・リハビリテーションの普及を中心に臨床・研究活動をしております。まだまだ未熟で至らない点ばかりですが、先輩方が築き上げてこられた基盤を「かたち」にすることが、我々の世代の責務だと感じております。患者さんや学会員の皆様にもっと笑顔を還元できるような学会づくりに尽力していく所存です。皆様のご理解とご支援をお願ひ申し上げます。</p>		

小熊 哲也		おぐまファミリークリニック
8	近畿支部	医師
<p>私は喘息や COPD の吸入療法を滋賀吸入療法連携フォーラムや吸入療法のステップアップをめざす会を通じて広める活動を続けています。吸入療法は複数回、繰り返し行うことが重要で、ドクターや薬剤師だけでは不十分で、看護師や理学療養士の力が必要です。このためには多職種の連携が必須で、多職種で構成されるケアリハ学会での活動が非常に重要と考えています。また、専門医だけでなく GP の意識改革も医師会を通じて行っています。</p>		

— 近畿支部 —

鬼塚 真紀子		大阪はびきの医療センター
9	近畿支部	看護師
<p>私は慢性呼吸器疾患看護認定看護師として、患者への直接支援や看護専門外来での療養相談・セルフマネジメント支援、院内外の看護職・多職種への教育活動に取り組んでいます。また、地域スタッフとの協働を通じて、継続性のある呼吸ケア体制の構築に努めています。臨床で培った経験と現場の声を学会活動に反映し、呼吸ケア・リハビリテーションの発展と質向上に貢献したいと考えています。</p>		

北 英夫		高槻赤十字病院
10	近畿支部	医師
<p>北摂地域で呼吸器専門医として、睡眠時無呼吸症候群、慢性呼吸不全、呼吸リハビリテーションに取り組み、HOT・在宅ハイフローの普及にも努めてきました。現場の課題を学会活動に反映し、地域に根ざした呼吸ケアの発展に貢献したいと考えます。</p>		

北島 尚昌		公益財団法人田附興風会医学研究所 北野病院
11	近畿支部	医師
<p>基幹病院の呼吸器内科医として、睡眠呼吸障害、在宅呼吸管理、呼吸リハビリテーションの臨床研究に携わり、国内外へ発信してまいりました。また、地域の医療・介護職と連携し、在宅呼吸ケアやACPを含む多職種連携の推進にも努めております。「研究と現場をつなぐ視点」を活かし、患者さんの生活を支える呼吸ケアの発展と、本学会活動のさらなる充実に貢献したいと考え、代議員に立候補いたします。</p>		

黄瀬 大輔		滋賀医科大学
12	近畿支部	医師
<p>COPD 患者さんにおけるサルコペニアや身体機能低下に関する研究に取り組んでまいりました。現在は、多職種と連携しながら、重症 COPD 患者さんに対する気管支バルブ留置術が身体機能や QOL に及ぼす影響を検討しています。また、呼吸ケアチームの一員としてチーム医療を実践しています。代議員として、学術活動と多職種連携の推進を通じて、呼吸ケア・リハビリテーション医療の発展に貢献してまいります。</p>		

— 近畿支部 —

熊野 宏治		パナソニック健康保険組合 松下記念病院
13	近畿支部	作業療法士
<p>上級呼吸ケア指導士の知見を活かしつつ、「呼吸の森」等の活動を通じ、多職種と生活を繋ぐ橋渡し役を担っております。また、最近ではRAND/UCLA法を用いたCOPDに対する作業療法ICF評価セットの開発と検証に注力して参りました。本学会では、作業療法の専門性を学術的根拠に基づき発信し、臨床研究の推進と質の高いエビデンス構築に寄与したく、代議員へ立候補致します。</p>		

佐藤 晋		京都大学大学院医学研究科
14	近畿支部	医師
<p>小生は2012年本学会員となり、2014年に代議員、2016年より広報委員会をはじめ、現在は財務、編集、診療報酬適正化委員会など委員会活動に従事しています。他学会との合同ポジションペーパー作成、現在その更新作業中で、2025年にはGOLD日本委員会との共同企画も担当しました。呼吸管理・呼吸ケア全般を扱う本学寄附講座を主宰し5年が経過し、引き続き本学会の発展に貢献出来る様、尽力する所存です。</p>		

白石 匡		近畿大学病院
15	近畿支部	理学療法士
<p>日本呼吸ケア・リハビリテーションの発展と質の向上に貢献するため、臨床現場の声を学会活動に反映し、多職種連携の強化と人材育成に尽力したいと考えております。エビデンスに基づく実践の普及と地域医療への還元を推進し、患者さんにより良いケアを提供できる体制づくりに努めます。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>		

角 謙介		NHO 南京都病院
16	近畿支部	医師
<p>南京都病院の角です。今まで代議員として学会活動に携わる中で、NPPV・HFNC、慢性期呼吸ケア、そして睡眠時無呼吸症候群に関する臨床経験と学会活動実績を積み重ねて参りました。今後もメディカルスタッフとの協働、チーム医療を大切にし、現場に根ざした呼吸ケア・リハビリテーションと、この学会の発展のために微力を尽くしたいと思っております。よろしくお願い致します。</p>		

— 近畿支部 —

立川 良		神戸市立医療センター中央市民病院
17	近畿支部	医師
<p>地域の基幹病院において、急性期医療から呼吸リハビリテーション、緩和ケアに至るまで、シームレスかつ全人的な呼吸器診療の実践に取り組んでいます。多職種連携のもと、若手育成と臨床研究の推進を通じて、エビデンスの創出と臨床実装に貢献してまいります。よろしく願いいたします。</p>		

田中 祐樹		兵庫県立神戸特別支援学校
18	近畿支部	臨床工学技士
<p>特別支援教育に従事する臨床工学技士として、病院での呼吸管理経験と教育現場の双方を経験してきました。医療的ケア児支援に携わる中で、呼吸ケアは病院内だけでなく生活の場で継続される重要性と、多職種連携の必要性を実感しています。学会活動を通して医療的ケア児領域の発信や教育講演の企画に取り組み、多職種の交流を深めながら、医療と教育をつなぐ立場から呼吸ケアの発展と次世代育成に貢献したいと考えています。</p>		

田平 一行		畿央大学健康科学部
19	近畿支部	理学療法士
<p>私は平成3年に理学療法士の免許取得後、主に呼吸器疾患の診療に従事してきました。13年間の臨床経験を経て、現在は大学で内部障害の理学療法を教えています。日本呼吸理学療法学会では、理事、学術誌の編集委員長を務めています。本学会では2016年から学術誌の編集委員、2018年からは査読責任者を務めています。これらの経験を踏まえて、代議員としても本会のためにお役に立てればと思っています。どうぞ宜しくお願いします。</p>		

玉木 彰		兵庫医科大学
20	近畿支部	理学療法士
<p>私はこれまで近畿支部における理学療法士の代議員として、日本呼吸ケア・リハビリテーション学会の運営に携わってきました。本学会は理学療法士や看護師などのメディカルスタッフ会員が非常に多く、年々増加傾向にあります。そのため今後もメディカルスタッフの代表として近畿支部ならびに本学会の更なる発展と学術活動の推進に寄与したいと考えております。引き続きどうぞ宜しくお願い致します。</p>		

— 近畿支部 —

玉置 伸二		独立行政法人国立病院機構 奈良医療センター
21	近畿支部	医師
<p>私は現在国立病院機構奈良医療センターに勤務し、呼吸器疾患センター長として呼吸器疾患全般の診療を行っています。また病院の特色を生かして、神経難病や重度心身障害者に対する呼吸管理にも取り組んでおります。当院では多職種による包括的呼吸リハビリテーションを導入しており、今後は大学病院等とも連携して奈良県における呼吸ケアの発展、学会の発展に貢献していきたいと思っております。どうかよろしくお願い致します。</p>		

茆原 雄一		国立病院機構南京都病院
22	近畿支部	医師
<p>私は睡眠呼吸障害・慢性呼吸不全の研究・診療に長年従事してきました。呼吸器疾患と神経難病のための呼吸ケアセンター長として多職種チームによる患者ケアを行っております。ご紹介頂いた患者さんのケアを行うだけでなく、コメディカルの教育にも力を入れております。学会の更なる発展のために、私がこれまで学んだことや様々な活動がお役に立てれば幸いです。</p>		

土谷 美知子		洛和会音羽病院
23	近畿支部	医師
<p>私は洛和会音羽病院で理学療法士とともに呼吸リハビリに力を入れています。現在、外来患者を対象とした呼吸リハビリの臨床研究を行っており、継続的リハビリの有効性に関するエビデンスを構築してまいる所存です。さらに呼吸リハビリに関心をもつ医療スタッフの育成にも尽力しています。これからも代議員として慢性呼吸器疾患患者に対するリハビリの発展に貢献したいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。</p>		

永田 一真		兵庫県立尼崎総合医療センター
24	近畿支部	医師
<p>私はこれまで非侵襲的呼吸管理を中心に、臨床研究を通じたエビデンスの発信や、院内外での実践的な若手教育活動に深く邁進してまいりました。この経験を活かし、本領域に興味を持つ医療者を一人でも多く増やし、次世代を担う人材を育成する基盤作りに尽力いたします。代議員として、研究と教育のさらなる活性化を推し進め、多職種が共に学び成長できる環境を構築することで、学会の発展に全力を尽くす所存です。</p>		

— 近畿支部 —

中西 美貴		大阪大学医学部附属病院
25	近畿支部	看護師
<p>私は呼吸器疾患看護認定看護師として、看護専門外来での継続看護や特定行為の実践に注力し、質の高い呼吸ケアの普及に努めて参りました。本学会は、多職種がベストプラクティスを共有し対話できる唯一無二の場です。私は代議員として、臨床の実践知を学術的に発信し、看護のプレゼンスを向上させると共に、多職種対話を促進し、本学会のさらなる発展と呼吸器疾患患者のより良い未来のために全力を尽くす所存です。</p>		

中野 恭幸		滋賀医科大学
26	近畿支部	医師
<p>2004年の入会以来、理事や学会誌編集委員長、各種委員会を通して本学会の発展に尽力して参りました。2028年には学術集会会長を務める予定です。今後も更なる発展を支えるとともに、大学教員として質の高い専門職の育成に努めます。また、地域における多職種協働での呼吸器疾患患者のケアの実践と体制推進に向け、これまでの経験を活かして貢献したく、代議員に立候補いたします。</p>		

中村 敬哉		滋賀県立総合病院
27	近畿支部	医師
<p>本学会に属して呼吸器内科医として診療に従事し、睡眠呼吸障害と呼吸不全などの研究の後、現在は総合病院の診療科長を経て病院長として幅広く呼吸器疾患全般の診療やチーム医療に取り組んでいます。若手の呼吸器内科医の育成に努め、微力ですが本学会の発展に貢献したいと考えております。</p>		

西田 憲二		国立病院機構南京都病院
28	近畿支部	看護師
<p>呼吸器疾患看護認定看護師として、慢性期医療における呼吸ケアの質向上と人材育成に取り組んできた経験を活かし、多職種連携の推進と現場実践に根ざした学術活動に貢献したいと考えております。臨床現場で得た課題や実践を学会活動へ還元し、呼吸ケア・リハビリテーション領域の発展に寄与できるよう努めてまいります。</p>		

— 近畿支部 —

西中川 剛		関西医科大学
29	近畿支部	理学療法士
<p>呼吸ケア・リハビリテーションの臨床・教育・研究で培った理学療法士としての視点を活かし、若手セラピストの次世代育成と多職種連携を基盤とした呼吸ケア・リハビリテーションの発展に尽力します。急性期から在宅まで一貫した呼吸ケアの質向上を目指し、AI などデジタル技術を活用した業務効率化と教育支援を推進し、学会の発展と会員価値の向上に貢献します。</p>		

西山 理		近畿大学医学部
30	近畿支部	医師
<p>びまん性肺疾患、肺高血圧症を専門としております。これらの領域でも treatable traits アプローチの重要性が着目されてきています。まさに呼吸ケアおよびリハビリテーションの普及および発展が重要であり、本目標の達成のため引き続き貢献していく所存です。</p>		

羽白 高		天理よろづ相談所病院
31	近畿支部	医師
<p>呼吸ケアの質は、現場を支える多職種の成長によって高まると考えています。研修医教育やチーム医療の経験を生かし、近畿支部の人材育成と学術活動の活性化に貢献いたします。地域医療の未来を共に築きたいと思っております。</p>		

濱田 哲		京都大学医学部附属病院
32	近畿支部	医師
<p>京都大学病院で勤務している濱田哲です。これまで NPPV を中心に呼吸ケアの研鑽を積み、「呼吸不全に関する在宅ケア白書 2024」では事務局として白書作成を推進しました。これらの活動を通じて、急性期、慢性期を問わず呼吸ケアのニーズは非常に高い一方で、次世代を担う若手人材の不足を痛感している。本学会の代議員として、これまでの経験を活かし、呼吸ケアに携わる若手医療者の育成とネットワーク構築に全力を注ぐ所存です。</p>		

— 近畿支部 —

半田 知宏		京都大学大学院医学研究科
33	近畿支部	医師
<p>1998年卒業後、大学病院および日本赤十字社和歌山医療センターで初期研修を行い、その後は大学にて間質性肺疾患の診療・研究に従事してまいりました。肺移植医療にも携わる中で呼吸ケア・リハビリテーションの重要性を実感しております。微力ながら本学会の発展と診療の質向上に貢献したく存じます。何卒よろしくお願い申し上げます。</p>		

東本 有司		近畿大学医学部
34	近畿支部	医師
<p>私は、18年前に自院における COPD や間質性肺炎の外來呼吸リハの立ち上げを行い、慢性呼吸器疾患患者の QOL の向上に努めてきました。また、地域における呼吸リハの普及のため、講演活動や研究会の運営などを実施してきました。今後も呼吸リハの発展に尽力していく所存です。よろしくお願いいたします。</p>		

平井 豊博		京都大学大学院医学研究科
35	近畿支部	医師
<p>呼吸器内科医として、大学での診療や研究、学生教育に加えて、多職種とのチーム医療、地域連携や、教育・啓発活動、専門医の育成など幅広く取り組んでまいりました。本学会では理事、支部長、委員会委員等を務めてきましたが、関連する領域の他学会でも理事等を歴任し、学会運営にも従事してまいりました。これまでの経験を活かして、本学会のさらなる発展に尽力してまいりたいと存じます。</p>		

藤田 幸男		奈良県立医科大学附属病院
36	近畿支部	医師
<p>私は呼吸器診療および栄養管理に従事しております。本学会では、COPD をはじめとする呼吸器疾患と栄養障害に関する研究発表や座長を務めてまいりました。また、呼吸ケア指導士の資格を取得し、包括的呼吸ケアの実践と普及に努めております。今後も、これまで培ってきた知識と経験を活かしながら、本学会の発展ならびに包括的呼吸ケアのさらなる推進に貢献できるよう尽力してまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。</p>		

— 近畿支部 —

堀江 淳		京都橋大学
37	近畿支部	理学療法士
<p>私はこれまで、呼吸リハビリテーションの臨床・教育・研究活動を通じて、呼吸ケアの発展と人材育成に取り組んできました。近年、呼吸器疾患患者の高齢化、複数疾患の併存など、呼吸リハビリテーションを取り巻く環境は大きく変化しています。今後、多職種連携による質の高い呼吸ケアの重要性が益々高まります。私は会員の皆様の学術活動の支援、臨床現場の課題、エビデンスの創出と普及に貢献したいと考えております。</p>		

松本 久子		近畿大学医学部
38	近畿支部	医師
<p>これまで自施設ではリハビリテーション科と密接に連携し、COPDを中心とした呼吸リハビリテーションの臨床実装とエビデンス創出を推進するとともに、気管支拡張症に対する排痰理学療法や振動呼吸陽圧療法の普及に取り組んできました。日本呼吸ケア・リハビリテーション学会では理事・代議員を務めてまいりました。今後も多職種連携を一層強化し、呼吸リハビリテーションの質向上と発展に貢献してまいります。</p>		

室 繁郎		奈良県立医科大学
39	近畿支部	医師
<p>気道疾患が専門で、COPD ガイドライン第 5、6、7 版、ACO の手引き初版、第 2 版の作成に携わらせて頂きました。2018 年から講座主任となり、びまん性肺疾患、悪性腫瘍、感染症など、多岐にわたる領域において、呼吸管理・リハビリテーションはますます重要となつてきていると認識しております。2011 年からは地域での呼吸リハビリの普及活動にも参画しており、微力ながら本会の発展に貢献できればと考えております。</p>		

森沢 知之		神戸リハビリテーション病院
40	近畿支部	理学療法士
<p>2020 年より代議員を務めてまいりました。これまでの臨床・研究・教育の経験を活かし、日本呼吸ケアリハビリテーション学会の発展に貢献できるように引き続き代議員に立候補いたします。</p>		

— 近畿支部 —

山内 基雄		奈良県立医科大学
41	近畿支部	医師
<p>奈良県立医科大学で睡眠呼吸障害、神経筋疾患に伴う呼吸障害、慢性呼吸器疾患の呼吸管理を中心に診療・研究を行っています。本学会活動としては代議員(2014年～)、将来計画委員会委員(2020年～)、倫理・COI委員会委員(2022年～)を務めております。これからもこれまで得た知識と経験を活かしながら集学的呼吸管理およびチーム医療の発展のために尽力していく所存ですので宜しくお願い致します。</p>		

山口 将史		滋賀医科大学医学部附属病院
42	近畿支部	医師
<p>これまで呼吸疾患の中でも慢性呼吸器疾患を中心に診療を行ってきたため、呼吸ケア及びリハビリテーションの重要性は身に染みて実感しています。そして、薬物療法同様に重要視して実践を行ってまいりました。大学病院に身を置く者として、後進育成とともに、本学会に少しでもお役に立てればと考えています。</p>		

山崎 亮		近畿大学医学部附属病院
43	近畿支部	医師
<p>間質性肺炎・肺高血圧を専門としています。研究テーマは間質性肺炎患者における呼吸器関連入院です。呼吸器関連入院は急性増悪・肺炎・気胸などがあり、入院死亡率が高いだけでなく、長期予後不良にも関連します。安定期の間質性肺炎患者において、多種職連携の重要性は理解が広がっていますが、急性期である呼吸器関連入院での多種職連携は未だ不十分です。急性期分野での多種職連携を推進していきたいと考えています。</p>		

山本 佳史		奈良県立医科大学
44	近畿支部	医師
<p>第3回近畿支部学術集会の事務局として運営に携わり、2018年7月より代議員として活動、第29回日本呼吸器ケア・リハビリテーション学会学術総会のシンポジウムで栄養管理の視点から講演致しました。日頃はCOPDや間質性肺炎の呼吸不全を診療していますが、多職種チーム医療による呼吸ケアのニーズが高まっているのを感じております。今後も本学会発展のために尽力していく所存ですので何卒よろしくお願い申し上げます。</p>		

— 近畿支部 —

吉村 千恵		日本赤十字社大阪赤十字病院
45	近畿支部	医師
<p>呼吸器・アレルギー疾患に対する医療連携・多職種連携および医療者の技術向上支援を、コロナ禍においても途絶えることなく、本学会の呼吸ケア指導スキルアップセミナー等を通じて継続してまいりました。今後は Airway Medicine の概念も踏まえ、高度な診療と医療者教育を推進し、女性医師の視点も生かしながら全国へ発信し社会に貢献してまいります。</p>		

荒川 裕佳子		KKR高松病院
1	中国・四国支部	医師
<p>本学会の魅力は、多職種が集い、各々の専門性を活かして急性期～慢性期～終末期まで幅広い呼吸器疾患患者の最適なケアに一丸となって取り組む中で、自分にはない視点に触れられる「楽しさ」、チーム全体で解決策を考え成長できる「やりがい」だと感じています。第10回中国・四国支部学術集会開催時のテーマ「高まるチーム医療の重要性和魅力」を皆様とともにさらに進化させたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。</p>		

石光 雄太		独立行政法人国立病院機構 関門医療センター
2	中国・四国支部	理学療法士
<p>呼吸ケア・リハビリテーションの質向上と普及に貢献したく、代議員に立候補いたします。臨床・教育・地域活動の経験を生かし、多職種連携の推進、若手育成、エビデンスに基づく実践の普及に努めます。現場の声を学会活動へ届け、地域格差の少ない呼吸ケア体制の構築に尽力します。</p>		

小賀 徹		川崎医科大学
3	中国・四国支部	医師
<p>大学病院で、診療・研究・教育に携わってまいりました。また COPD や SAS のガイドライン作成や、日本呼吸器学会呼吸管理学会部会長も務めてきました。本学会では、特に多職種連携を意識して、呼吸器領域全体が活性化するように尽力してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。</p>		

小幡 賢吾		岡山赤十字病院
4	中国・四国支部	理学療法士
<p>2014年より代議員を務めております。本学会は会員数の減少(特に急性期病院)が問題となっています。学会の発展には会員数の増加は必要不可欠です。急性期病院に在籍している立場から、急性期病院の方にとってより魅力的な学会コンテンツや学術集会プログラムを提案することで、会員増加に力を入れたいと思います。また2040年問題についても呼吸器疾患の分野で検討したいと考えております。会員の皆様、よろしくお願ひいたします。</p>		

勝田 知也		愛媛県立中央病院
5	中国・四国支部	医師
<p>愛媛県立中央病院で呼吸器専門医として診療・研究に従事し、第 12 回中国・四国支部学術集会長を拝命しております。四国・中国地域の医師・看護師・療法士など多職種の声学会運営に届け、呼吸ケア・リハビリテーションのさらなる発展に寄与すべく、代議員に立候補いたします。</p>		

門脇 徹		国立病院機構松江医療センター
6	中国・四国支部	医師
<p>私は NPPV を軸に、ハイフローセラピーや体外式陰・陽圧人工呼吸を統合した「包括的非侵襲的呼吸管理」を提唱し、体系化と臨床実装に取り組んできました。呼吸管理はデバイス選択にとどまらず、病態理解とチーム医療を含めた“実践知”として現場に根付かせることが重要と考え、その普及に向け教育・講演活動を行っています。今後も代議員として「現場と学会をつなぐ役割」を担い、本学会の発展に貢献してまいります。</p>		

國近 尚美		山口赤十字病院
7	中国・四国支部	医師
<p>山口県は呼吸器内科医師が少なく喘息死や COPD 死も多い県の一つです。現在代議員として活動し、第 5 回中国四国支部学術集会を開催致しました。呼吸器内科専門医として山口市喘息死ゼロ作戦研究会を 18 年前に立ち上げ、メディカルスタッフとともに地域医療連携に取り組んでおります。また、山口呼吸ケア研究会などでも多職種で連携し活動しております。今後も引き続き学会や地域医療に少しでも貢献させて頂きたいと思っております。</p>		

倉田 和範		倉敷中央病院
8	中国・四国支部	理学療法士
<p>私は当学会に入会して 12 年が経ち、学術集会での演題発表 6 回、学術誌への論文掲載 2 本を経験してまいりました。また、所属施設では呼吸リハチームに従事し、臨床現場において呼吸リハに日々携わっております。これまでの経験を活かし、理学療法士の立場から当学会の活動のさらなる発展に貢献したく、代議員に立候補いたしました。よろしくお願い申し上げます。</p>		

関川 清一		広島大学大学院医系科学研究科
9	中国・四国支部	理学療法士
<p>近年、地域における呼吸ケア・リハビリテーションの需要は高まっており、呼吸障害を有する方への直接支援に加え、組織化活動や教育・啓発活動の充実が求められています。中国・四国地区の特性を生かした取り組みを通じて、地域に貢献できるよう努めてまいります。何とぞよろしくお願い申し上げます。</p>		

友田 恒一		川崎医科大学総合医療センター
10	中国・四国支部	医師
<p>慢性閉塞性肺疾患(COPD)および間質性肺炎に起因する呼吸不全に対して心身両面からサポートできる呼吸ケアを心がけ、また第24回本学会学術講演会事務局長を務めた経験を生かし、本学会の発展に貢献すべく精進いたします。よろしくお願い申し上げます。</p>		

長尾 大志		島根大学医学部
11	中国・四国支部	医師
<p>島根大学医学部地域医療教育学講座の長尾です。医療の現場ではこれまでに類のない高齢化が進行し、それに伴うフレイル・サルコペニア、ADL低下の問題が多く見られます。小職は高齢化先進県である島根県の地域医療の現場(市中病院・診療所)で、卒前教育の臨床実習を行い、上記の問題解決のためリハビリテーションの意義を伝えています。また医学教育全般に関与し、医学生、研修医に選ばれる場所づくりを試行しています。</p>		

中村 洋之		坂出市立病院
12	中国・四国支部	医師
<p>私は香川県で「喘息、COPDの吸入支援・指導の多職種連携」のネットワーク構築、「間質性肺炎のチーム医療」などの活動を行っております。今後、これらの活動を広げていきたいと思っております。宜しくお願いいたします。</p>		

— 中国・四国支部 —

萩森 康孝		一般財団法人 永頼会 松山市民病院
13	中国・四国支部	理学療法士
<p>松山市民病院の萩森康孝と申します。代議員として、呼吸リハの最新情報をいち早く地方の現場へ届け、日々の臨床に活かせる知識や技術の共有に努めます。地方だからこそ感じる課題を中央に伝え、呼吸リハのさらなる発展に貢献できればと思っています。次年度の地方会学術集会では副大会長として、学びと交流の場を創ります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。</p>		

濱田 泰伸		広島大学大学院医系科学研究科
14	中国・四国支部	医師
<p>日本呼吸器学会の専門医・指導医、日本呼吸ケア・リハビリテーション学会の上級呼吸ケア指導士として、呼吸器疾患の診療、教育、研究に従事して参りました。2024年5月には第9回中国・四国支部学術集会を開催させていただきました。微力ではありますが、今後も呼吸ケア・リハビリテーション学会の発展に寄与したいと考えております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。</p>		

原田 さをり		大正通りクリニック
15	中国・四国支部	看護師
<p>訪問看護師として25年間、本学会での学びを活かし呼吸器疾患の療養者様と多くの時間を過ごさせていただきました。その経験から、地域で活躍する保健・医療・福祉の支援者に広く呼吸ケア・リハビリテーションを知ってもらおう努力や活動が必要だと感じております。地域課題もある中、本学会の先生方と力を合わせて引き続き代議員として尽力して参りたいと思っております。</p>		

藤井 昌学		岡山大学学術研究院医歯薬学域
16	中国・四国支部	医師
<p>呼吸器内科・老年医学的な観点から呼吸リハビリテーションの実践と啓蒙を行いたいと考えております。</p>		

松永 和人		山口大学大学院医学系研究科
17	中国・四国支部	医師
<p>山口大学に呼吸器・感染症内科学講座が開講し 11 年目を迎えました。実地臨床の現場を大切に、地域医療の基盤構築と患者に寄り添える医療人の育成を目標に取り組んでいます。多職種で連携を図りながら、日本の呼吸ケアと呼吸リハビリテーションのさらなる発展と普及に向けて努力して参ります。何卒ご支援をよろしくお願い申し上げます。</p>		

宮崎 慎二郎		KKR高松病院
18	中国・四国支部	理学療法士
<p>中国・四国支部のより一層の発展に尽力できるよう本学会代議員に立候補させていただきます。呼吸ケア・リハビリテーションに関する学術活動の推進、臨床・地域への普及、チーム医療を通じた多職種の活躍を図るために努める所存です。皆様のご支援、ご協力を賜ることが出来ましたら幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>		

宮原 信明		岡山大学大学院 保健学研究科
19	中国・四国支部	医師
<p>私は、気管支喘息、COPD、肺線維症などの呼吸器疾患の診療・研究と、呼吸機能検査や呼吸生理学の教育に携わってまいりました。臨床・研究・教育の経験を活かし、日本呼吸ケア・リハビリテーション学会の発展、多職種連携の推進、人材育成に貢献できるよう努めてまいります。</p>		

村川 勇一		さぬき市民病院
20	中国・四国支部	理学療法士
<p>香川県のさぬき市民病院で理学療法士をしております村川勇一と申します。本学会の代議員として、これまでの経験を生かしながら中国・四国支部を中心に学会運営に携わって参りました。引き続き、中国・四国支部および本学会の更なる発展に微力ながら尽力させていただきたいと思い、代議員に立候補させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。</p>		

森下 誠也		医療法人臼井会 田野病院
21	中国・四国支部	理学療法士
<p>初めて立候補させていただきます。私の所属する田野病院は高知県東部では唯一の急性期と回復期リハビリ病棟を有する医療機関です。これまで院内スタッフへの呼吸器関連の情報提供や研修会を実施し質の向上に努めてきました。今後も継続していくと共に、高知県東部の住民の方々にも広げていき、呼吸リハビリテーションの普及と啓発に寄与していきたいと思っております。</p>		

山崎 昌代		みんなのかけつけ訪問看護ステーション香川
22	中国・四国支部	看護師
<p>私はこれまで、看護師の研修会等を企画し自己研鑽を続けながら、地域の呼吸ケアの質向上に取り込んできました。また、呼吸器疾患を抱える患者様が在宅で安楽に過ごせるよう、多職種と連携しながら支援を行っております。これらの経験を活かし、呼吸ケアの発展に貢献したいと考えております。</p>		

山本 晃市		KKR高松病院
23	中国・四国支部	臨床工学技士
<p>引き続き代議員選挙に立候補させていただきました、香川県 KKR 高松病院の山本と申します。私は臨床工学技士として、院内だけでなく在宅呼吸管理にも携わっております。高齢化が進む中、在宅領域における呼吸ケアの重要性はさらに高まっており、多職種連携による継続支援が不可欠です。微力ではございますが、現場で得た経験や課題を学会活動へ還元し、呼吸ケア・リハビリテーション学会の発展に貢献できるよう努めてまいります。</p>		

朝井 政治		大分大学
1	九州・沖縄支部	理学療法士
<p>大分大学の朝井でございます。これまで本学会の代議員として関わらせていただきました。また、大分大学異動後の 2017 年より医療資格保有者を対象とした勉強会を有志とともに開催し、呼吸リハビリテーションの普及に努めてまいりました。2026 年度は本学会の九州・沖縄支部学術集会の大会長を拝命し、準備を進めております。今後も呼吸リハビリテーションの発展に尽力したいと考えております。よろしくお願い致します。</p>		

池内 智之		霧ヶ丘つた病院
2	九州・沖縄支部	理学療法士
<p>これまで呼吸器専門病院にて入院、外来、在宅の呼吸リハビリテーションに従事する傍ら、呼吸リハビリテーションの普及や認知度向上のため、地域での研究会立ち上げや行政への働きかけを行ってきました。その経験を活かし、患者さんや会員にとってより良い環境となるよう、微力ながら本学会の発展に貢献させていただきたく存じます。</p>		

井本 久紀		恵友会 霧ヶ丘つた病院
3	九州・沖縄支部	看護師
<p>慢性呼吸器疾患看護認定看護師として、在宅～入院を結ぶケアの実践、NPPV 管理や吸入療法支援の質向上に努めてまいりました。その成果を年間 16 回の講演にて発信し、多職種への情報伝達と育成に貢献しております。今期は、九州・沖縄認定看護師会の代表世話人としてのネットワークをさらに強固にし、学会と臨床・地域の架け橋となる所存です。ご信任のほど、よろしくお願い申し上げます。</p>		

大池 貴行		九州看護福祉大学看護福祉学部
4	九州・沖縄支部	理学療法士
<p>私は、理学療法士の育成と研究に携わるとともに、在宅呼吸リハビリテーションの普及に取り組んでいます。入院から在宅への円滑な移行を実現するため、医療機関と在宅領域の諸施設との連携強化に努め、情報共有体制の整備や呼吸リハビリテーションの質向上に向けた学術的取り組み、学習環境づくりを進めてきました。これらの活動を通じて、呼吸ケア・リハビリテーション普及に寄与し、本学会の発展に貢献できれば幸いです。</p>		

— 九州・沖縄支部 —

河野 哲也		霧ヶ丘つだ病院
5	九州・沖縄支部	医師
<p>専門は、「気管支喘息」「COPD」「ニコチン依存症」です。特に禁煙関連は書籍執筆や雑誌連載歴もあり、貴学会のお役に立てるかと思じます。</p>		

川山 智隆		久留米大学
6	九州・沖縄支部	医師
<p>気管支ぜん息や慢性閉塞性肺疾患患者を中心に診療および研究を行っております。呼吸ケアや呼吸リハビリテーションの発展に寄与したいと考えております。よろしく願い申し上げます。</p>		

北川 知佳		長崎呼吸器リハビリクリニック
7	九州・沖縄支部	理学療法士
<p>呼吸リハビリテーションの重要性は広く認識されつつありますが、地域によっては十分な支援を受けられない患者さんもおられます。特に退院後の在宅支援には課題が多く、継続的な呼吸ケア体制の充実が急務です。私は、これまでの経験を活かし、呼吸器疾患の患者さんが地域を問わず安心して支援を受けられるような環境づくりに微力ながら貢献したく、代議員に立候補いたします。</p>		

木下 隆		久留米大学
8	九州・沖縄支部	医師
<p>久留米大学の木下でございます。喘息・COPD、間質性肺炎などの慢性呼吸器疾患を中心に診療しており、術前外来における呼吸リハビリテーションの重要性も日々実感しております。これまでの臨床経験を活かし、呼吸ケア・リハビリテーションの発展と多職種連携の推進に少しでも貢献できれば幸いです。</p>		

— 九州・沖縄支部 —

神津 玲		長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
9	九州・沖縄支部	理学療法士
<p>私はこれまで、当学会の学術活動および運営活動に携わり、その発展を実感して参りました。一方で、外来・在宅における呼吸リハビリテーションの普及、診療報酬、理学療法士会員の減少など課題もあります。これまでの経験を活かし、学会の発展と会員の皆様の活動に貢献して参ります。何卒よろしくお願い申し上げます。</p>		

坂本 憲穂		鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
10	九州・沖縄支部	医師
<p>私は呼吸器内科の医学部教員として、学生、若手医師への教育、指導に加え、理学療法士の先生方とともに呼吸リハの臨床研究に積極的に取り組んでまいりました。その経験を通して、特に間質性肺疾患の呼吸リハに関する更なる発展が必要と感じており、臨床、研究面での取り組みを通して今後の呼吸ケア・リハビリテーション学会の発展に全力を尽くして参りたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。</p>		

下川 満美		独立行政法人国立病院機構 福岡病院
11	九州・沖縄支部	看護師
<p>慢性疾患看護専門看護師及び慢性呼吸器疾患看護認定看護師として呼吸器疾患を患う患者さん、ご家族に対し支援を行ってきました。代議員としても会員の皆様とともに呼吸器疾患に苦しむ方々に対し少しでもお役に立てればと思っております。よろしくお願いいたします。</p>		

城石 涼太		宇都宮内科医院
12	九州・沖縄支部	理学療法士
<p>外来・訪問領域の呼吸リハビリテーションを理学療法士として従事しています。福岡地区で外来呼吸リハビリテーションを開始してから10年ほど経過し、徐々にでは他施設の医療・介護スタッフとの交流も増えつつあると感じます。微力ではありますが、今後の呼吸リハビリテーションの地域での発展のために尽力したいと思い、本学会代議委員へ立候補させていただきます。</p>		

新貝 和也		長崎大学病院
13	九州・沖縄支部	理学療法士
<p>理学療法士の新貝と申します。私はこれまで、急性期から慢性期まで幅広く呼吸リハビリテーションの臨床および臨床研究に取り組んでまいりました。当学会においては、現在、国際化委員ならびに呼吸リハビリテーション施設委員として活動しております。自身の臨床・研究経験を活かし、当学会のさらなる発展に尽力する所存でございます。何卒よろしくお願ひ申し上げます。</p>		

杉木 優一郎		かごしま高岡病院
14	九州・沖縄支部	理学療法士
<p>呼吸器疾患への治療として、呼吸器リハビリテーションの更なる発展の必要性を日々現場で感じております。地域医療に従事する立場から、臨床現場の声を学会活動に反映させ、有益な情報を広く社会へ提供できるよう努めます。次期も代議員として、本領域の研鑽と普及、そして学会のより一層の活性化に貢献したく、誠心誠意取り組む所存です。何卒よろしくお願ひ申し上げます。</p>		

陶山 和晃		令和健康科学大学
15	九州・沖縄支部	理学療法士
<p>私はこれまで理学療法士として、呼吸器疾患に対する遠隔リハビリテーションの研究や臨床実践に尽力してまいりました。代議員に選出された暁には、デジタルヘルスの観点から本学会を通じた新たな呼吸リハビリテーションのエビデンス創出に貢献いたします。また、実践的なシミュレーション教育構築のノウハウを活かし、若手人材育成の一手段として展開することで、本学会のさらなる飛躍と地域医療の発展に寄与する所存です。</p>		

高岡 俊夫		医療法人聖心会 かごしま高岡病院
16	九州・沖縄支部	医師
<p>気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、結核等の診療に携わり、吸入療法、呼吸リハビリテーションの普及、在宅酸素療法、非侵襲的陽圧換気療法の導入、睡眠呼吸障害に対するスリープスタディを長年にわたり行ってきました。講演活動、市民公開講座等により地域に情報発信を積極的に行っています。今後も本学会のさらなる発展・普及のため、微力ながら貢献したいと思い、代議員選挙に立候補しました。</p>		

— 九州・沖縄支部 —

高橋 浩一郎		佐賀大学医学部附属病院
17	九州・沖縄支部	医師
<p>私は佐賀大学医学部附属病院において、臨床・教育・研究に従事しております。COPD、間質性肺疾患を中心に呼吸器疾患の診療を担当し、地域における医療連携に関して、薬剤師、看護師、理学・作業療法士との多職種連携の取り組みを主導しております。教育面では医学生・若手医師に対する教育を担当しています。評議員に選出されれば、上記の取り組みを通して日本呼吸ケア・リハビリテーション学会に貢献していく所存でございます。</p>		

竹中 隆一		大分大学医学部附属病院
18	九州・沖縄支部	医師
<p>私は救急・集中治療・呼吸器診療を専門とし、急性期から在宅医療まで一貫して呼吸ケア・リハビリテーションに携わってまいりました。日本呼吸器学会代議員をはじめ複数の学会で評議員・委員等を務めており、その経験を活かして関連学会との連携、多職種協働の推進、人材育成に取り組み、本学会の発展に貢献したいと考えております。</p>		

田中 貴子		長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
19	九州・沖縄支部	理学療法士
<p>平素より大変お世話になっております。このたび、日本呼吸ケアリハビリテーション学会の代議員に立候補いたしました。職種の枠を超えた連携のもと、臨床・教育・研究を有機的に結び、呼吸ケア・リハビリテーションの価値向上と社会への発信に貢献したいと考えております。また、臨床実装と人材育成を推進するとともに、国際的ネットワークを活かし、学会の発展に尽力してまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。</p>		

玉城 仁		医療法人はごろも会 那覇ゆい病院
20	九州・沖縄支部	医師
<p>COPD や間質性肺炎患者の中には、薬物療法後も呼吸困難を抱えながら通院されている方が少なくありません。また、在宅酸素療法開始後に初めて呼吸リハビリ目的で紹介される患者様もおられ、呼吸リハビリ提供体制には地域差があると実感しています。学会員増加や呼吸リハビリの普及・研究充実、多職種連携の推進を通して、呼吸器疾患で苦しむ患者様と地域医療へ貢献できるよう尽力してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>		

東元 一晃		国立病院機構南九州病院
21	九州・沖縄支部	医師
<p>NHO 南九州病院は呼吸器疾患を診断から緩和ケアまで一貫して診療可能な中核医療機関です。当院ではあらたに「呼吸不全緩和ケアセンター」を設置しリハビリを含む呼吸緩和ケアの充実をはかることにしました。また、がんリハビリテーション、呼吸不全早期～終末期までのリハビリプログラムを設定しこれらの効果を検証する研究も開始しています。当学会における臨床及び研究の充実に寄与できるものと考えています。</p>		

平田 奈穂美		熊本中央病院
22	九州・沖縄支部	医師
<p>高齢の患者が増加する状況で、呼吸器疾患診療におけるリハビリテーションはますます重要な位置を占めていくと思われま。急性期病院での治療開始時期から、地域での連携を強化し、今後も地域での呼吸リハビリテーションと適切な呼吸器ケアの普及に努めてまいりたいと存じます。</p>		

藤井 一彦		熊本市立熊本市民病院
23	九州・沖縄支部	医師
<p>二次救急病院で喘息、COPD、呼吸不全などを中心に診療を行っており、2018 年より本学会の代議員を務めさせていただいています。近年、COPD のみならず間質性肺炎等についても呼吸ケア、呼吸リハの重要性がますます注目されており、若手の医師やスタッフの育成の必要性を実感しています。今後も微力ながら本学会の発展に寄与したいと考えています。どうぞ宜しくお願いいたします。</p>		

松田 俊明		鹿児島大学病院
24	九州・沖縄支部	医師
<p>2024 年より鹿児島大学病院に勤務し、呼吸器疾患診療ならびに呼吸ケア・リハビリテーションに関する臨床・研究活動に取り組んでおります。地域医療との連携を大切にしながら、本学会の発展と呼吸ケア・リハビリテーションの普及に貢献できるよう努めてまいります。</p>		

— 九州・沖縄支部 —

松元 信弘		国立病院機構宮崎東病院
25	九州・沖縄支部	医師
<p>世界でも類を見ないほど高齢化が進んだ日本では、身体活動性を障害する慢性疾患の罹病が増え、フレイルやサルコペニアを予防するため、呼吸ケアやリハビリテーションの重要性は増す一方です。日本呼吸ケア・リハビリテーション学会が中心となって新たな治療や病態の研究開発活動を促進し、呼吸ケア・リハビリテーションへ興味を持つ医療者を増やしていく必要があります。私も微力ながら学会員の皆様方とともに努力する所存です。</p>		

宮本 明		西九州大学
26	九州・沖縄支部	理学療法士
<p>呼吸と嚥下は並走している2本の電車のレールのように、協調しながら、的確に切り替えることも必要であります。本学会の代議員となった場合、当分野の知識と技能の普及と増進に一生懸命にさせていただきます。どうぞ、宜しくお願い申し上げます。</p>		

吉田 誠		国立病院機構福岡病院
27	九州・沖縄支部	医師
<p>本学会員・代議員として地域医療、教育、研究に取り組んできました。地域医療では慢性呼吸不全の連携パスによる連携体制を構築し、普及に努めています。教育面では医師のみならず多医療職種を指導してきました。研究面では COPD 患者における身体活動性低下に関する研究等に関わってきました。令和7年3月に第12回九州沖縄支部学術集会の大会長として5年ぶりの集合開催を実現しました。今後とも本学会に貢献していく所存です。</p>		

吉村 力		福岡大学病院
28	九州・沖縄支部	医師
<p>呼吸生理学・睡眠医学を専門とし、SAS、COPD、気管支喘息を中心に診療・研究・教育に従事しております。特に NIRS および呼吸リハビリテーションの研究と普及に注力し、エビデンス創出と臨床応用の橋渡しを進めてまいりました。若手医療者の育成、多職種連携、地域医療との協働を通じて、本学会のさらなる発展と呼吸ケア・リハビリテーション医療の質向上に貢献します。何卒御支援の程、宜しくお願い申し上げます。</p>		